

曲川遺跡発掘調査概要報告書

2007 年度調査



2009.12

財団法人 元興寺文化財研究所

曲川遺跡発掘調査概要報告書

2007 年度調査

2009

財団法人 元興寺文化財研究所

例言

1. 本書は、曲川遺跡における発掘調査の成果の概要をまとめたものである。
2. 調査地は奈良県橿原市曲川町 457-2、470-1、502-1 番地ほかに所在し、開発対象面積 32,896.4m² のうち発掘調査面積は 2,900m² である。
3. 調査は奈良県教育委員会及び橿原市教育委員会から依頼を受けた鈴元興寺文化財研究所が、平成 19 年 4 月 9 日～7 月 25 日まで現地での作業を実施し、藤井章徳が担当した。整理及び報告書作成作業は、調査後速やかに開始し、平成 21 年度をそれに充てた。
4. 調査地の実測及び写真撮影は藤井・福山博章（奈良大学卒業生）が行い、構真麻（奈良大学）の協力を得た。出土遺物の実測及び浄書は、仲井光代・武田浩子・奥田智代・福山が担当した（所属は当時）。
5. 調査地の基準点測量は世界測地系 2000 を利用し、水準は TP である。測量及び図化業務は㈱アコードが担当した。
6. 本書の執筆は第 1 章を佐藤亞里、第 2 章を藤井章徳、それ以外を村田裕介が担当した。
7. 遺構写真の一部については掘内保彦氏（掘内保彦事務所）による画像補正を行った。
8. 遺物の詳細については、紙幅の都合上、巻末の表にまとめた。
9. 本書の編集は村田が行った。

目次

第 1 章 調査の経緯と体制	1
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査体制	1
第 2 章 調査地の位置と周辺の調査	2
第 3 章 調査の成果	6
第 1 節 基本層所	6
第 2 節 弥生時代～古墳時代の遺構・遺物	7
第 3 節 古代以降の遺構・遺物	22
第 4 節 包含層出土の遺物	26
第 4 章 総括	26

関連資料

- 検出遺構略図・遺構仮番号配置図
- 掲載遺物一覧
- 検出遺構および出土遺物一覧

写真図版

第1章 調査の経緯と体制

第1節 調査に至る経緯

平成18年3月に株式会社大和流通経済研究所（代表取締役 田村耕一）より、奈良県教育委員会教育長宛てに発掘の届出が提出された。隣接地ではこれまでに弥生時代中期から古墳時代前期の周溝墓群等がみつかっていることから、発掘調査が必要との判断がなされた。

その後、平成19年3月、工事内容の変更に伴い届出の変更が行われ、これを受けて奈良県教育委員会、樋原市教育委員会、跡元興寺文化財研究所で協議を行った。その結果、跡元興寺文化財研究所が調査を受託することに決定。平成19年4月、㈱大和流通経済研究所と当研究所の間で発掘調査委託契約を締結した。発掘調査に関する費用は㈱大和流通経済研究所が負担した。

重機、作業員、測量図化等は㈱大和流通経済研究所が手配し、平成19年4月16日調査に着手、7月25日現地調査を終了した。

遺物整理作業および報告書作成作業は現地調査終了後、平成21年1月に整理・調査概報作成業務契約を締結、速やかに着手した。現地調査および整理過程では、㈱大和流通経済研究所の協力をいただき、また奈良県教育委員会、樋原市教育委員会には隨時適切な指導を賜った。関係者各位に深くお礼申し上げたい。

第2節 調査体制

発掘調査及び整理・報告書作成は次の体制で実施した（所属は当時）。

調査指導：奈良県教育委員会・樋原市教育委員会

調査主体：跡元興寺文化財研究所

理事長 辻村泰善

所長 塚井清足

事務局長 奥洞二郎

研究部長 狹川真一

人文考古学研究室（考古担当）

室長 伊藤健司

主任研究員 佐藤亜聖

研究員 藤井章徳（現地調査）

研究員 村田裕介（整理・報告書作成）

現地作業員：㈱ワーカー

調査補助員：福山博章（奈良大学卒業生）、柳真麻（奈良大学学生）、仲井光代・武田浩子・奥田智代（人文考古学研究室）

調査及び整理にあたり、次の方々から指導・助言をいただいた。感謝申し上げます。（敬称略：所属は当時）

西藤清秀（奈良県教育委員会）、齊藤明彦、濱口和弘、平岩欣太・松井一見（樋原市教育委員会）

第2章 調査地の位置と周辺の調査

曲川遺跡の所在する奈良県橿原市は、奈良盆地の南辺に位置する。市域の南部から東部には、本馬山から貝吹山・香久山を経て鳥見山へと至る山地が南西から北東方向を主軸として横たわる。山地の間には河川等による風化崩壊の侵食と耕地拡大のための人為的改変が加わった結果、樹枝状の地形を呈する開析谷地形が形成されている。市内を流れる河川は、西から順に曾我川、高取川、桜川、飛鳥川、米川、寺川等がほぼ等間隔にあり、緩やかに北へ向かって傾斜する地形とともに北流している。こうした河川の堆積作用により、橿原市域北・中部は扇状地と自然堤防を伴う沖積地を形成している。

橿原市の中部、大和高田市との市境付近に曲川遺跡は所在する。遺跡範囲は遺跡名の由来となっている曲川池を中心とする直徑約400～700mにわたる地域が想定されている。現在の行政区画では、曲川町、新堂町、雲梯町、忌部町などに当たり、旧金橋村の広範囲に及ぶと考えられている。

沖積地上に立地する曲川遺跡は、東の曾我川、西の葛城川に挟まれた標高61.3mの平坦に立地する。曲川池の北東から南方にかけて条里地割の乱れが確認できることから、旧流路の存在が推定できる。大和高田市境界付近から曲川町にかけて北北東方向に伸びる幅30～50mの帯状の高まりは、旧流路に伴う自然堤防であると考えられる。奈良盆地全体がそうであるように、曲川周辺地域も吉野川分水の通水以前は水不足が深刻な問題であった。この問題を解決すべく、1879年に曲川村民の合力によって曲川池が築造された。しかし、2002年に埋め立てられ、現在は大型ショッピングセンターに姿を変えている。

曲川遺跡周辺では国道24号線橿原バイパスの建設に伴う発掘調査や京奈和自動車道関連の発掘調査など、近年盛んに発掘調査が実施されている地域である。

当地域において、縄文時代以前の遺構を伴う遺跡はあまり知られていない。橿原市西曾我遺跡では、縄文時代中期の遺物包含層が確認されており、橿原市東坊城遺跡では後期から晩期の土坑が検出されている。大和高田市西坊城遺跡では、土壤墓と考えられる晩期の土器を伴う土坑が検出されている。

弥生時代には曾我川、葛城川流域を中心として多くの遺跡が確認できることから、当地域において積極的な土地開発が行われたと考えられる。曾我川中流域に所在する橿原市中曾司遺跡は、東西200m、南北300mの範囲と推定され、前期から後期にわたって溝、住居跡などの遺構が検出されている。このため、中曾司遺跡はこの地域における拠点的な集落であったと考えられている。橿原市新沢一町遺跡、橿原市千塚山遺跡では中期の住居跡が検出されている。橿原市西曾我遺跡、橿原市土橋遺跡では中期から古墳時代にわたって周溝墓が造営されている。貝吹山から派生した独立丘陵である忌部山に所在する橿原市忌部山遺跡では、弥生時代後期の住居跡や溝が検出されており、高地性集落が営まれたと考えられる。

古墳時代全般においては、曾我川流域で多くの遺跡が形成されることから、大規模な開発がなされていたことが窺える。曾我川左岸に立地する東坊城遺跡では、古墳時代前期から中期と考えられる大溝が検出されている。この大溝より古墳時代前期から中期の土師器、初期須恵器の他、鍛造鉄斧、鞆羽口等の鍛冶関連遺物、滑石製の勾玉、管玉といった祭祀関連遺物が出土していることから、付近に大規模な集落の存在が推定されている。大和高田市西坊城遺跡では、中期から後期の水田と掘立柱建物が検出されており、部分的ではあるが、古墳時代の集落が確認されている。橿原市曾我遺跡では、中期から後期の玉類、石製模造品の未成品、砥石が大量に出土し、玉造りを専業的に営んだ大規模な生産遺跡として著名である。橿原市西曾我遺跡では、中期の土坑が検出されており、曾我遺跡との関連が指摘されている。

古墳時代の特徴的な遺跡として大規模な古墳の造営がある。曲川遺跡の近隣には、前期の前方後円墳である橿

原市スイセン塚古墳と中期の前方後円墳である橿原市鳥屋ミサンザイ古墳が所在している。曾我川上流域には総数600基以上の新沢千塚古墳群が4世紀から7世紀まで連綿と造営が続いており、渡来系の文物を多く有することでも有名である。また、近年の発掘調査の増加により、周辺地域の埋没古墳の検出も増加している。大和高田市松浦北遺跡では中期～後期の古墳周溝および、多種類の埴輪を検出している。同遺跡西方の三倉池から後期の木棺が6基以上出土したことは著名である。中期から後期の古墳である橿原市四条古墳群や橿原市四条シナノ古墳群では、大量の木製品が出土したことで注目されている。このように、低地部にも古墳群が造営されており、今後の調査の増加により古墳の数も増加することが予測される。

飛鳥時代以降では曲川遺跡周辺には顯著な遺跡は確認できない。7世紀後半には藤原京が造営されるが、近年の調査成果による京城復元案では、曲川遺跡は藤原京西京極より西方へ約1km離れている。曲川遺跡の北方には古代の官道である横大路が東西に通っており、今日でも横大路推定線と重複して橿原市の市道が東西に走る。

旧大和国内には城一条里が施行されたことが明らかとなっており、今日でも各所で明瞭な上地区画痕跡を残す。曲川遺跡周辺で認められる南北に継続する旧河道を境に、西に葛下郡、東に高市郡路西条里が復元されている。

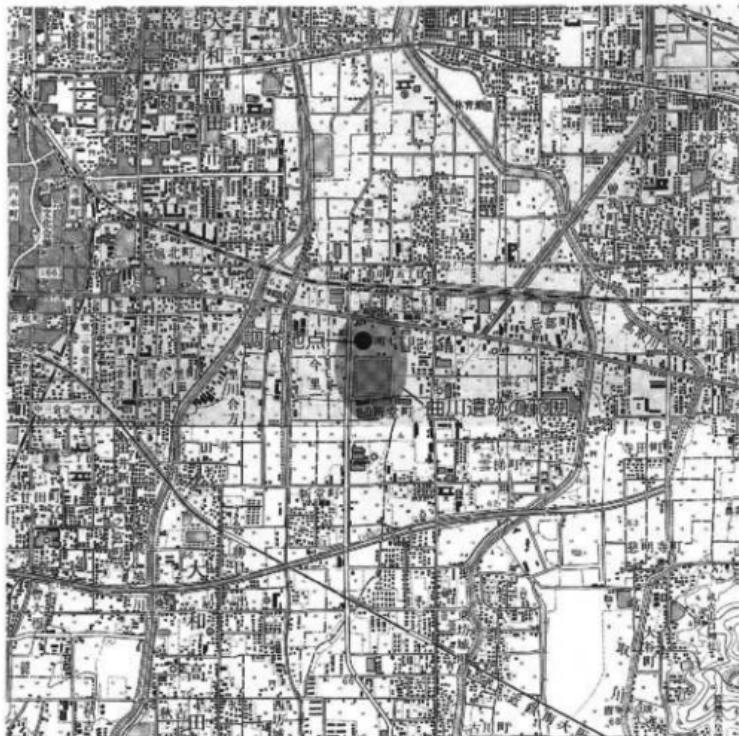


図1 調査地の位置 (S:1/25,000)

橿原市西曾我遺跡では平安時代後半から鎌倉時代の掘立柱建物・井戸、耕作跡などが検出されている。この調査成果が示すように、平安時代以降から中世を通じて高市郡においては、多くの莊園が出現している。莊園の多くは一乘院門跡領、大乗院門跡領を主とする興福寺領である。詳細な地点は不明であるが、おおまかな位置は遺存地名により推定可能である。西に曲川庄、横大路をはさんで南に忌部庄があり、曾我川をはさんで東に曾我庄、北に中曾司庄が存在したと考えられる。

室町～戦国時代には東坊城、新堂、忌部、曲川などに環濠集落が形成され、現集落の原型となっている。橿原市芝の前遺跡では室町時代の墓地跡が検出されており、環濠集落と墓地とのありかたを考えることができる。

参考文献

石野博信 1973「大和の弥生時代」『考古学論叢』奈良県立橿原考古学研究所

改定橿原市史編纂委員会 1987「橿原市史・本編下巻」

関川尚功 1988「芝の前遺跡」奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第 53 収 奈良県立橿原考古学研究所

佐藤良二ほか 1989「曾我遺跡」奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第 55 収 奈良県立橿原考古学研究所

大西貴夫ほか 1999「西坊城遺跡」奈良県文化財調査報告書第 83 収 奈良県立橿原考古学研究所

伊藤雅和・岡田憲一 2003「西坊城遺跡Ⅱ」奈良県文化財調査報告書第 90 収 奈良県立橿原考古学研究所

北山峰生・松井一晃 2005「曲川遺跡」奈良県立橿原考古学研究所調査報告第 90 収 奈良県立橿原考古学研究所

藤井章徳ほか 2006「曲川遺跡発掘調査報告書 2004 年度調査」鷹元興寺文化財研究所

佐々木好直 2007「曲川遺跡Ⅱ」奈良県立橿原考古学研究所



図 2 今回の調査地点と 2004 年度調査区の位置 (S : 1/1,000)

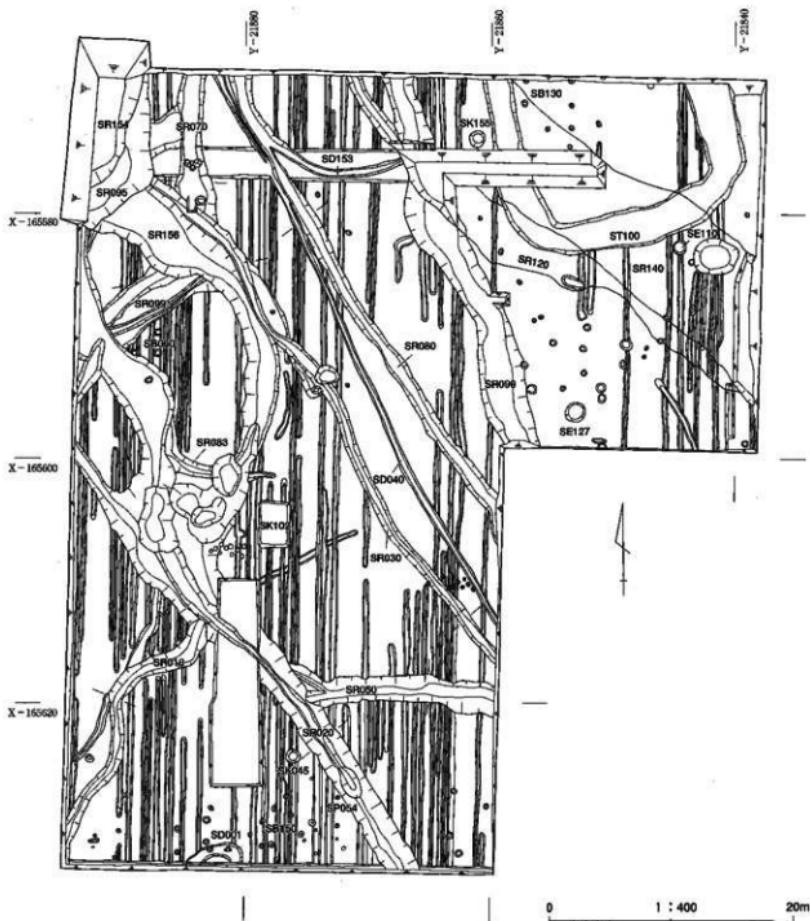


図3 遺跡全休図 (S: 1/400)

第3章 調査の成果

第1節 基本層序

調査地内は、表土下約50cmにわたって、粗礫を主体とする造成土が施され、その下層には近世末期以後と推測される水田とともにう耕土とみられる青灰色粘質土が50cmほど堆積している。この下層より瓦器等を含む中世の包含層（暗褐砂層）が20cmほどの厚さで堆積している。中世の遺構は、暗褐砂層を除去した段階で検出されるが、その多くは、洪水砂と考えられる厚さ20cmほどの堆積（灰白砂層）直上に形成されている。この灰白砂層下層には、古墳時代初頭までの土器が含まれる包含層（黒褐砂層）が堆積している。

調査区内の層序に対する以上のような認識に立脚した上で、調査は2面の遺構面を対象として実施し、第1遺構面は暗褐砂層直下の遺構、第2遺構面は灰白砂層・黒褐シルト層直下の遺構を対象とした。但し、調査期間の関係上、第1遺構面は、遺構掘削はおこなわず、検出のみに止め、第2遺構面調査後には、下層遺構の確認のため調査区の一部にトレーニチを設けて第3遺構面として調査を行った。

本概報では、第2遺構面で検出された遺構を中心に報告する。

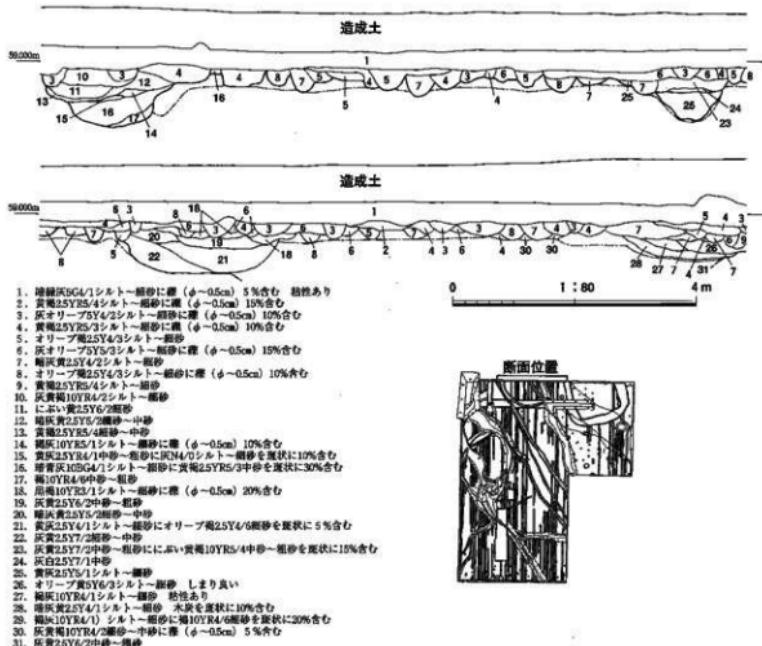


図4 調査区北壁土層断面図 (5:1/80)

第2節 弥生時代～古墳時代の遺構・遺物

方形周溝墓

ST100(図5・6)

AM～AU～2～7区において検出された溝である。北側が調査区外となり全体像は不明だが、検出範囲での平面形はU字形を呈し、幅は約2.2～3.5mを測る。底部断面形態は浅いU字形を呈し、深さ約0.2～0.3mである。埋土は概ね2層からなり、上層より黒色シルト、灰白色シルトである。埋土の様子から湛水状態での堆積が想定される。平面形態及び埋土の堆積状況から周溝墓を巡る周溝であると考えられる。この場合、周溝墓としての規模は、東西幅14m、南北幅12m以上であり、墳丘主軸は北東を志向する。

遺物は甕(1、3)、高杯(2)が出土しているが、全般に希薄である。南東隅より出土した3は、出土状況から完形であったことが想定される。出土層位は黒色シルト層である。墳丘上あるいは周溝外に配置された土器が、周溝が若干埋没した段階で周溝内に脱落し、その後埋没したものと考えられる。

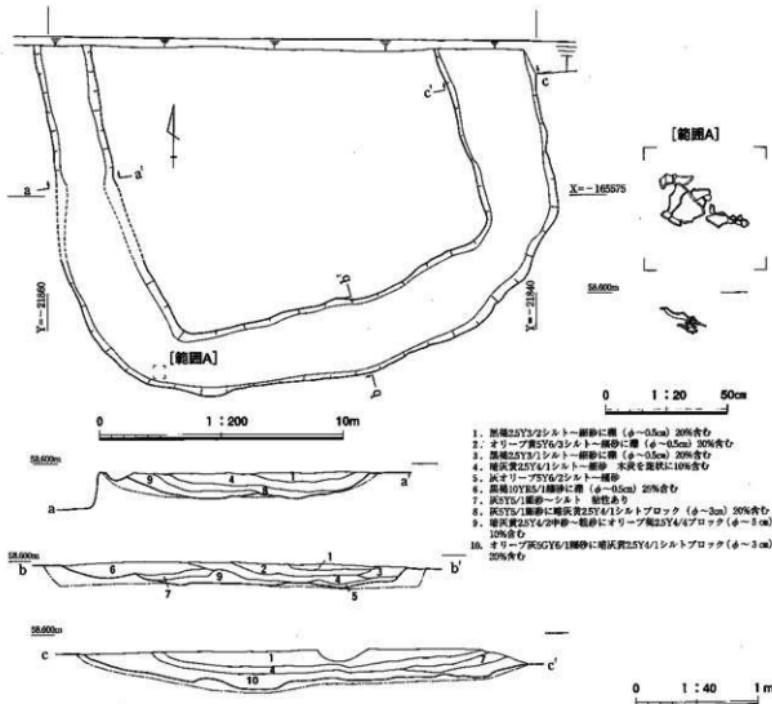


図5 ST100 平面図(S:1/200)・土層断面図(S:1/40)・遺物出土状況図(S:1/20)

出土した土器の年代より、弥生時代後期末の焼造と考える。

掘立柱建物

SB150 (図 7)

AG ~ AI - 22 ~ 23 区において検出された掘立柱建物である。建物主軸は北東—南西を指向し、梁行 1 間、桁行 3 間である。柱間は梁行 1.3 ~ 1.5 m、桁行約 3.2 m である。柱掘方は直径約 40cm の円形を呈し、抜取穴径は 20cm 前後である。周辺には関連する施設等は確認されず、性格は不明である。

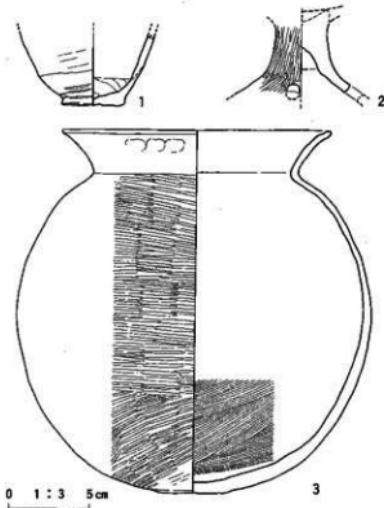


図 6 ST100 出土遺物実測図 (S: 1/3)

遺存状態が良好な遺物はほとんど出土せず、造営年代は不明だが、調査区内で検出されたその他の建物主軸が正方位に乗っているのに対して、大きく偏位し、多くの自然流路の方向に直行する主軸を持つこと、及び、埋土の色調が、その他の建物に比べて暗く、弥生時代後期末の遺構と考えられる SD001 の埋土に近いことを考慮すると、SB150 も同様な時期が想定できる。

井戸

SE127 (図 8・10 - 4 ~ 17)

AP - 11 区において検出された素掘りの井戸である。掘方の平面形は円形を呈し、直径約 1.5 m、深さ約 1.2 m を測る。埋土は概ね 2 層からなり、上層より黒褐色砂、黒色シルトである。

遺物は上層の黒褐色砂より、壺 (4)、甕 (5 ~ 7)、鉢 (8, 9)、高杯 (10)、下層の黒色シルトより、壺 (11)、甕 (12 ~ 14)、高杯 (15, 16)、杭? (17) が出土

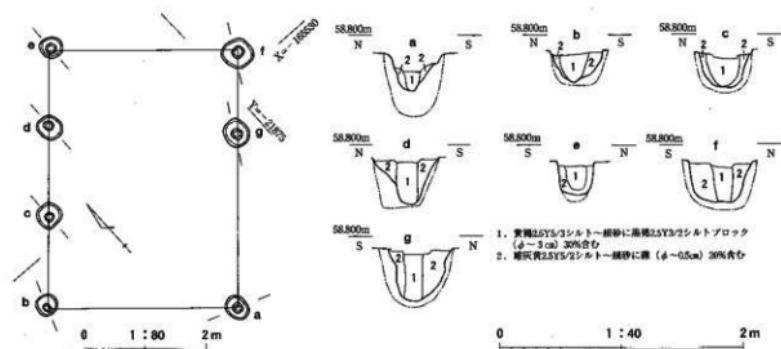


図 7 SB150 平面 (S: 1/80)・土層断面図 (S: 1/40)

している。16に施されている円孔は上下に位置する2つを除いて貫通していない。

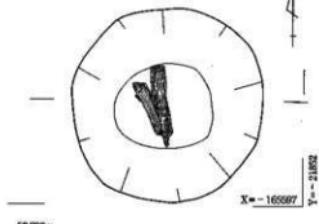
出土した土器の年代より、弥生時代中期後半には機能しており、弥生時代後期後半に埋没したと考える。

土坑

SK045 (図8・10・18)

AO-7区において検出された土坑である。平面形は円形を呈し、直径約1.1mを測る。底部断面形態はU字形を呈し、深さ約0.75mである。埋土は概ね2層からなり、上層より灰色砂、暗褐色シルトである。埋土の様相により、灌水状態で半分ほど埋没した後、浅く残った窪みに水流による堆積で完全に埋没したものと考えられる。3層上面では網代状の炭化物を検出した。

SE127

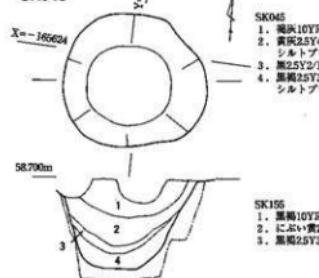


- SE127
1. 黒褐色10YR6/1シルト～細砂に層 ($\phi \sim 0.5\text{cm}$) 10%含む 土器片多い(黒褐色砂で取り上げ)
 2. 黒褐色2.5Y4/1シルト～細砂に層 ($\phi \sim 0.5\text{cm}$) 10%含む(黒褐色砂で取り上げ)
 3. 黒褐色2.5Y5/1中砂～細砂(黒褐色砂で取り上げ)
 4. 黒NA7/0シルト～細砂 層下部に木片堆積(黒褐色砂で取り上げ)
 5. 黒褐色5B4/1粗砂 木片含む(黑色シルトで取り上げ)
 6. 黑5Y4/1シルト～細砂 層下部に木片堆積 粘性あり(黒色シルトで取り上げ)
 7. 黑褐色5B4/1粗砂 木片含む 粘性あり(黑色シルトで取り上げ)

58.700m

58.700m

SK045



SK045

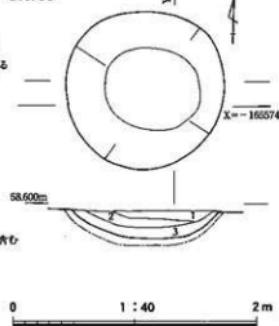
1. 黒褐色10YR4/1中砂～粗砂
2. 黒褐色2.5Y3/1シルト～細砂に層にない 黒褐色2.5Y5/3
シルトブロック ($\phi \sim 3\text{cm}$) 10%含む
3. 黑2.5Y2/1シルト～細砂 網代状に炭化物が残る
4. 黑褐色2.5Y3/1シルト～細砂に層 黒褐色2.5Y3/1
シルトブロック ($\phi \sim 3\text{cm}$) 20%含む

58.700m

SK155

1. 黒褐色10YR2/2シルト～細砂
2. ぶい黒2.5Y3/3粗砂～中砂
3. 黑褐色2.5Y3/1中砂～粗砂に層 ($\phi \sim 0.5\text{cm}$) 20%含む

SK155



0 1:40 2m

図8 SE127・SK045・155 平面・土層断面図 (S:1/40)

遺物の出土はほとんどみられず、暗灰色シルトより壺の体部（18）が出土したのみである。出土した土器の年代より古墳時代前期に機能していたと考える。

SK155 (図 8・10 - 19、20)

AM ~ AN - 4 区において検出された土坑である。平面形は円形を呈し、直径約 1.3 m を測る。底部断面形態は U 字形を呈し、深さ約 0.2 m である。埋土は概ね 3 層からなり、上層より黒褐色シルト、黄色砂、黒褐色砂である。埋土中より出土した壺体部片（19、20）より、弥生時代後期に機能していたと考える。

溝

SD001 (図 9・11 - 21)

AF ~ AG - 23 区において検出された溝である。南半は調査区外のため、全形は不明である。幅約 0.9 m を測る。底部断面形態は浅い U 字形を呈し、深さ約 0.1 m である。埋土は黒褐色シルトである。

遺物は図示している甕口縁部（21）が出土している程度で全体的に少ない。出土した土器の年代より、弥生時代後期末には機能していたと考える。

SD040 (図 21)

AH ~ AN - 6 ~ 17 区において検出された溝である。座標北から約 25 度西へ振れる方向で斜行し、南端は調査区の東側へ、北端は調査区の北側へと伸びている。SR080 に先行する。幅は約 0.4 ~ 0.6 m を測る。底部

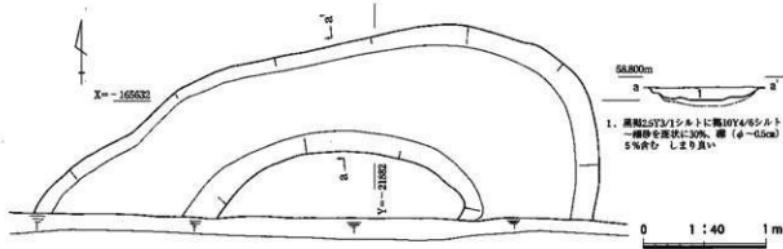


図 9 SD001 平面・土層断面図 (S: 1/40)

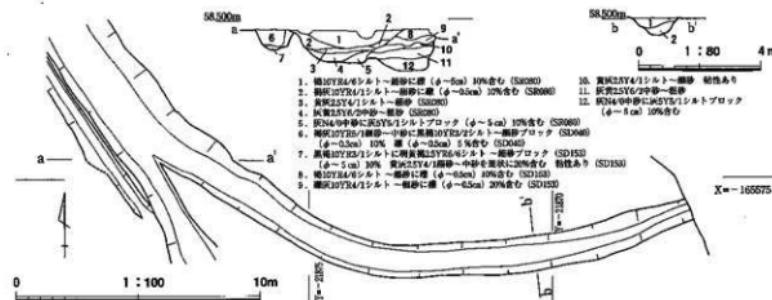


図 10 SD153 平面 (S: 1/100)・土層断面図 (S: 1/80)

断面形態はU字型ないし逆台形を呈し、深さ約0.1～0.5mであり、北へ向かうにつれ深くなる。埋土は屢ね1層からなり、黒褐色シルトであり、上層には地山土のブロックを多く含み、下層は粘土質となっている。このため、掘削後、湛水状態で短期間機能した後に、埋め戻されたことが想定される。

遺物が出土しなかったため時期は不明だが、SR080に先行することから、弥生時代後期を遡る遺構と考えられる。

SD153 (図10・11・24)

AH～AK・4～5区において検出された溝である。南側に張り出した弧状を呈し、東端をSR080、西端を

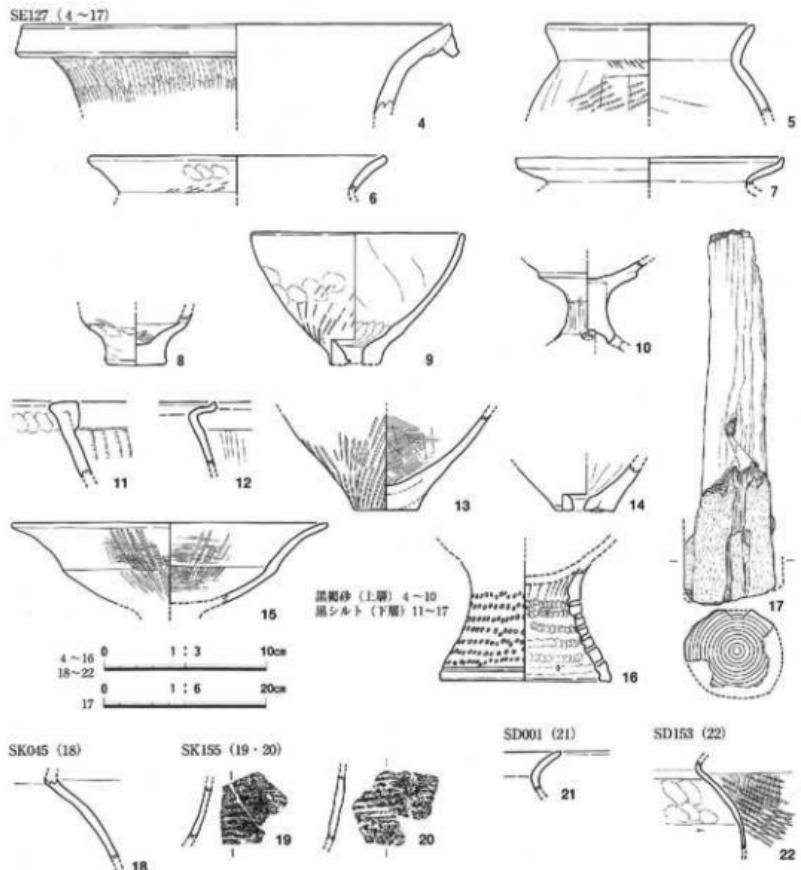


図11 SE127・SK045・155・SD001・153 出土遺物実測図 (5:1/3・1/6)

SR140により壊されている。幅は約0.7～1.0mを測る。断面形態はU字形を呈し、深さ約0.9mである。埋土は概ね粗い砂層で構成され、流水状態での埋没が想定できる。

調査区内で見られる流路等とは全く異なる平面形を呈するため、何らかの人為的造成を推測させるが、性格については不明である。

遺物は喪体部片(24)が出土している程度で全体的に少ない。出土した土器の年代より、弥生時代後期末には機能していたと考える。

自然流路

SR010(図19)

AB～AF・13～17区において検出された流路である。調査区の南西より流れ込み、SR044・049と離合分散しながら北側に蛇行した後、北端はSR020に合流する。幅は約1.0mを測る。底部断面形態はU字形を呈し、深さ約0.3mである。埋土は概ね2層からなり、上層より灰白砂、青灰砂である。いずれの層も粗砂を主体とし、流水状態で堆積したことが窺える。遺物はほとんど出土していない。SR020に先行することから、これと同時期か、若干先行して機能していたものと想定される。

遺物は出土していないが、埋没の前後関係より弥生時代後期以前に機能していたと考える。

SR020(図12・23～36・図19)

AC～AL・7～23区において検出された流路である。調査区の南方より流れ込み、AC・AD・13・14区付近で二股に分岐し、調査区の北西へと流れ出している。分岐点付近では渦状に深さを増している。幅は約2.5～5.5mを測る。底部断面形態はU字形を呈し、深さ約0.7～1.1mである。埋土は概ね3層からなり、上層より黄灰色シルト、暗灰色砂、青灰色粘土である。埋土の様相より、流れの穏やかな時期のあった後、流水状態での堆積を経て、比較的流れの穏やかな状態で埋没したものと想定される。

各層より土器が出土しているが、特に分岐点付近であるAD・AE・14～16区の渦状落ち込みに堆積する青灰砂層から多く出土した。土器の中には、ほぼ完形で出土しているものもある。同地点が渦状に落ち込んでいる理由は、この位置が下層のSR145との交差点にあたり、流路の基盤となる地面が砂質を呈しているため、水流によって抉られたためと考えられる。

遺物は、黄灰色シルトより甕(23)、高杯(24)、暗灰色砂より甕(25、26)、高杯(27)、サヌカイト剥片(36)、青灰シルトより甕(28～30)、甕(31、32)、把手付鉢(33)、高杯(34、35)が出土している。28は頸部以上は完存しており、胴部以下を故意に打ち欠いた可能性がある。30の壺体部の外面には3条の連続山形紋、5条の連織紋、2条の連続山形紋が施され、赤彩の痕跡がみられる。

出土した土器の年代より、弥生時代後期～古墳時代前期前にかけて機能していたと考える。

SR030(図12・37～41・図19)

AD～AN・5～18区において検出された流路である。調査区の南東から流れ込み、斜行しながら調査区の北西へと流れ出す。SR070・156に後出し、SR095・154に先行する。幅約0.8～1.4mを測る。底部断面形態はU字形を呈し、深さ約0.4～0.6mである。埋土は概ね2層からなり、上層より黄灰色シルト、暗灰色砂である。埋土の様相より、流水状態での堆積の後、比較的流れの穏やかな状態で埋没したものと想定される。SR095に直交する位置関係から、これより確実に先行するものと想定される。

遺物は上層の黄灰色シルトより甕(37、38)、下層の暗灰色砂より、壺口縁部(39)、杭(40、41)が出土している。

出土した土器の年代より、弥生時代後期後半から末にかけて機能していたと考える。

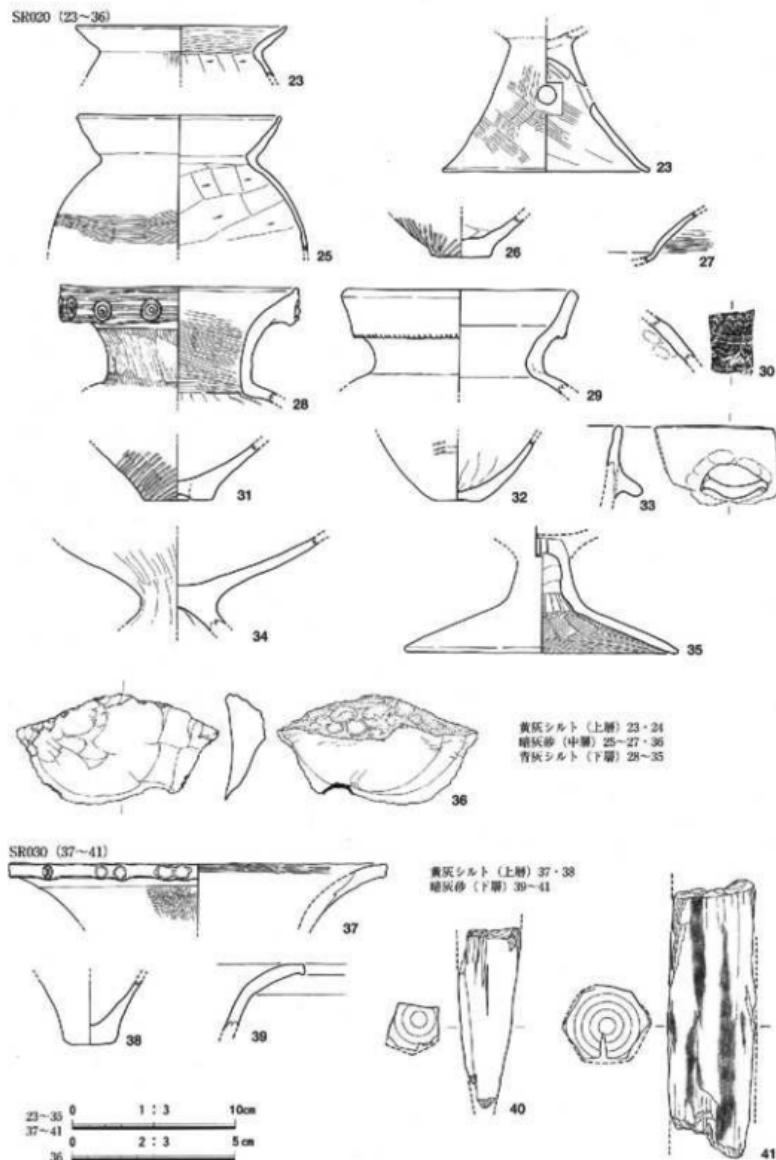


図12 SR020・030出土遺物実測図 (S:1/3・2/3)

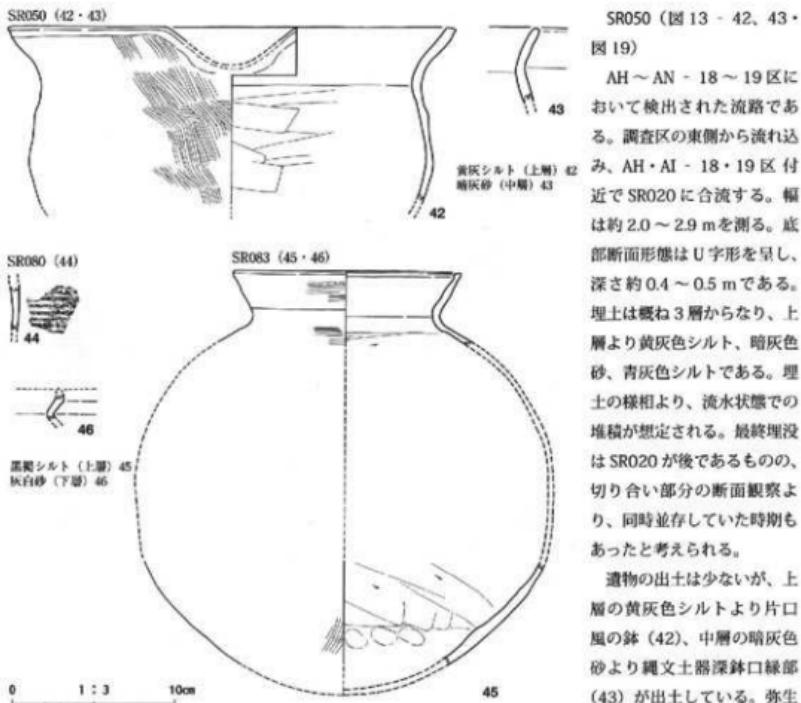


図 13 SR050・080・083 出土遺物実測図 (5:1/3)

図 19

AH ~ AN - 18 ~ 19 区において検出された流路である。調査区の東側から流れ込み、AH・AI - 18・19 区付近で SR020 に合流する。幅は約 2.0 ~ 2.9 m を測る。底部断面形態は U 字形を呈し、深さ約 0.4 ~ 0.5 m である。埋土は概ね 3 層からなり、上層より黄灰色シルト、暗灰色砂、青灰色シルトである。埋土の様相より、流水状態での堆積が想定される。最終埋没は SR020 が後であるものの、切り合い部分の断面観察より、同時並存していた時期もあったと考えられる。

遺物の出土は少ないが、上層の黄灰色シルトより片口風の鉢 (42)、中層の暗灰色砂より縄文土器深鉢口縁部 (43) が出土している。弥生時代後期後半から末には埋没が始まっていたと考える。

SR070 (図 14・47 ~ 60・図 19)

AD ~ AH - 5 ~ 6 区において検出された流路である。AE・AF - 13 ~ 16 区で SR020 から分岐し、東側に張り出す屈曲を経て、調査区の北側へ流れ出す。SR020 よりの分岐点付近には、淵状の落ち込みが存在する。他の部分に比べて極端に深くなっている。後述する灰白色砂層は、この落ち込みの埋土である。また、落ち込み部分には樋と考えられる丸木杭による構造物が検出された。幅は SR020 よりの分岐点では広いが、概ね約 0.8 ~ 1.5 m を測る。底部断面形態は U 字形を呈し、分岐点以外での深さは約 0.6 m である。埋土は概ね 3 層からなり、上層より黄灰色砂、灰褐色砂、灰白色砂である。埋土の様相より、流水状態での堆積が想定される。遺物は淵状落ち込み部分に集中して出土し、土器、木製構造物が多数出土している。SR020 と同じく、土器の中には完形で出土しているものもある。同地点が落ち込んでいるのは、SR020 と同様に、この位置が前述の SR145 との交差点にあたり、流路の基盤となる地面が砂質を呈しているため、水流によって抉られたためと考えられる。

樋は 2 列で構成されている。東側の列は南北方向に長く、東側の列は東西方向に長い。どちらも、淵状落ち込みが深くなっている土手部分に流れを遮断する形で敷設されている。樋を構成する杭の遺存状態は良好ではなく、原位置で検出できたのは、打ち込まれている根元部分のみであった。このため上部構造については不明であ

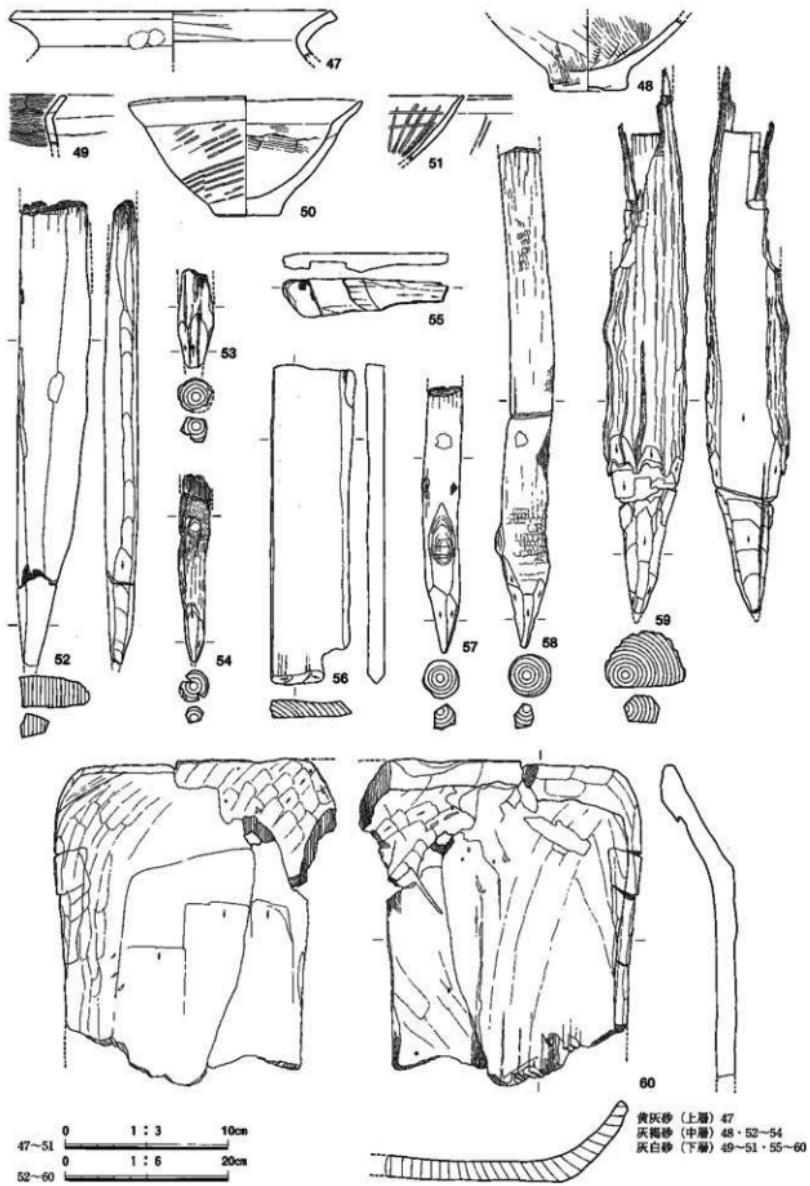


図14 SR070出土遺物実測図 (5:1/3・1/6)

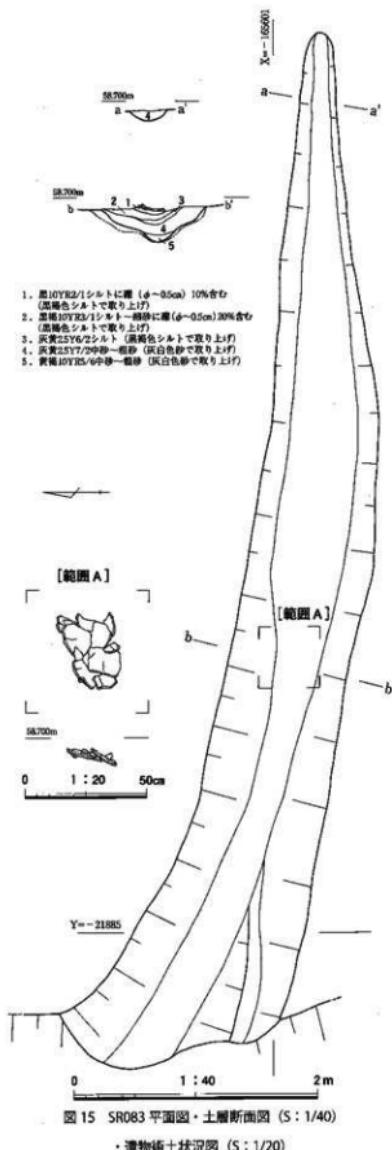


図 15 SR083 平面図・土層断面図 (S: 1/40)
・遺物分布状況図 (S: 1/20)

るが、東側の杭列では、15cm程度の丸木を利用した構造材を、杭列とほぼ並行する位置関係で検出した。

遺物は上層より、黄灰色砂より甕口縁部(47)、灰褐色砂より甕底部(48)、杭(52~54)、灰白色砂より甕口縁部(49)、鉢(50)、高杯(51)、木製柄(55)、不明木製品(56)、杭(57~59)、木製槽(60)が出土している。

出土した土器の年代より、弥生時代後期初頭から後半にかけて機能していたと考える。

SR080 (図 13 - 44・図 19)

AF ~ AN - 2 ~ 13 区において検出された流路である。調査区の東から流れ込み、北西側へ斜行しながら調査区の北側へ流れ出す。南端部の調査区東壁直下が、ちょうど合流地点になっており、南東側から流れ込んでくる 2 本の流路がこの位置で合流している。幅は約 1.0 ~ 1.6 m を測る。底部断面形態は U 字形を呈し、深さ約 0.5 ~ 0.6 m である。埋土は概ね 2 層からなり、上層より暗灰色砂、青灰色砂である。埋土の様相より、流水状態での堆積が想定される。

遺物は甕部片(44)が出土している程度で少ない。弥生時代後期には機能していたと考える。

SR083 (図 13 - 45、46・図 15)

AF ~ AH - 13 区において検出された流路である。東西に流れおり、東端が浅くなっているため、東側より流れ込んでいると考えられる。西端は SR020 に先行するが、これは最終埋没時期の違いであり、底部の形態及び断面の観察結果を考慮すると、一定期間同時並存していた可能性が高い。また、SR083 のような調査区内で収束する流路が存在することから、検出した構造は相当程度削平されていると考えられる。幅約 1.0 m を測る。底部断面形態は浅い U 字形を呈し、深さ約 0.2 ~ 0.3 m である。埋土は概ね 2 層からなり、上層より黒褐色シルト、灰白色砂である。

遺物は、上層の黒褐色シルトより、甕(45)、下層の灰白色砂より甕口縁部(46)が出土している。前者は一箇所に破片がまとまって出土していることから、当初は完形に近い状態で埋没したと想定される。

出土した土器の年代より、古墳時代前期初頭には埋没が始まっていたと考える。

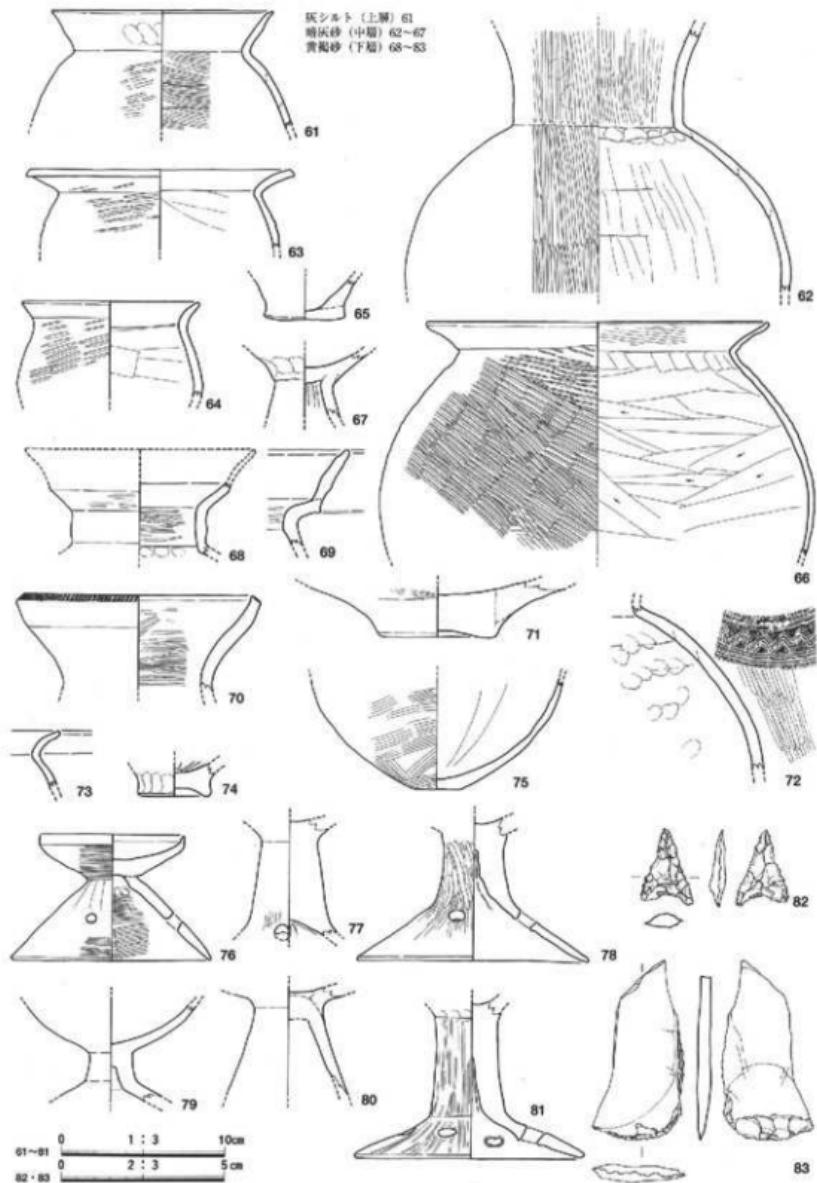


図16 SR090出土遺物実測図 (5:1/3・2/3)

SR090 (図 16 - 61 ~ 83)

AK ~ AO - 2 ~ 12 区において検出された流路である。調査区南側より流れ込み、北西方向へ斜行しながら調査区北側へと流れ出す。SR120・140・134 に後出する。幅は約 2.4 ~ 3.5 m を測る。底部断面形態は U 字形を呈し、深さ約 0.5 ~ 0.7 m である。埋土は概ね 4 層からなり、上層より褐色砂、灰色シルト、暗灰色砂、黄褐色砂である。埋土の様相により、流水状態での堆積の後、比較的流れの穏やかな状態で埋没したものと想定される。遺物は灰色シルトより甕 (61)、暗灰色砂より壺 (62)、甕 (63 ~ 66)、高杯 (67)、黄褐色砂より壺 (68 ~ 72)、甕 (73 ~ 75)、器台 (76)、高杯 (77 ~ 81)、石錐 (82)、加工痕のあるサヌカイト剝片 (83) が出土している。全体的に見ると、底部近くの灰色砂層及び黄褐色砂層中より多くの土器が出土している。また、出土した土器の中には完形のものも含まれる。

SR090 については、流路の主軸が、SR020・040・080 と比べて若干北寄りを志向する。むしろこの主軸傾向は、後述する周溝墓の主軸や、人工溝と考えられる SD040 に近い。また、遺物の出土量も比較的多い。以上のことより、人工の溝、あるいは自然流路ではあるが積極的な人為的利用が行われていた可能性を指摘しておきたい。

出土した土器の年代より、弥生時代末から古墳時代初頭にかけて機能していたと考える。

SR095 (図 17・図 18 - 84 ~ 92)

AC ~ AD - 9 ~ 10 区において検出された流路である。底部のレベルによると、調査区北側より流れ込み、西側へ屈曲して調査区西側へ流れ出す。北端は後続する SR154 により破壊され、下層には SR156 が存在する。幅は約 1.9 ~ 3.5 m を測る。底部断面形態は U 字形を呈し、深さ約 0.4 ~ 0.5 m である。埋土は概ね粗砂で構成され、流水状態での堆積が想定される。

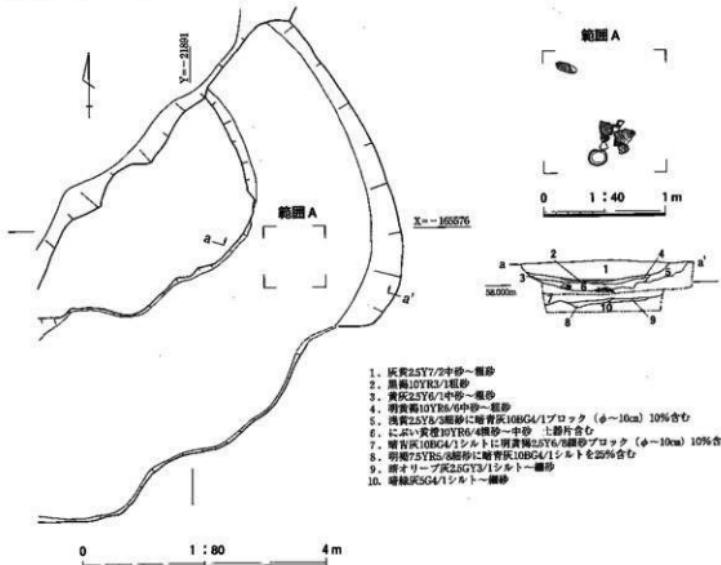


図 17 SR095 平面図・土層断面図 (S : 1/80)・遺物出土状況図 (S : 1/40)

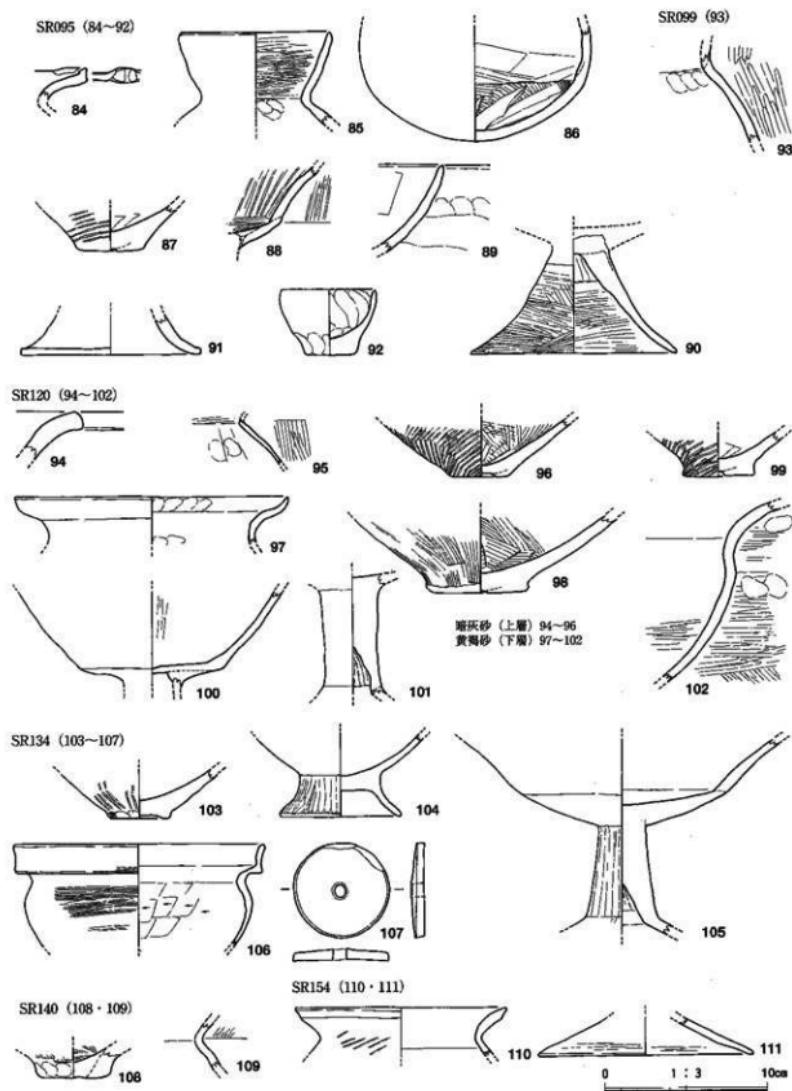


図 18 SR095・099・120・134・140・154 出土遺物実測図 (S : 1/3)

遺物は壺(84～86)、壺(87)、高杯(88～91)、鉢(92)が出土している。底部付近より比較的多く出土し、溝底部に接した状態で出土しているものもある。冒頭で述べた流路の流入出方向については、土層断面の記録による底部レベルの高低差から導き出したが、調査区内での検出面積は狭く、確定はしがたい。

出土した土器の年代より、弥生時代後期末から古墳時代初頭にかけて機能していたと考える。

SR099 (図 18 - 93・図 19)

AC ~ AE - 7 ~ 10 区において検出された流路である。調査区西側より流れ込み、北東方向に斜行する。SR020, SR070 より古く、SR156 より新しい。幅は SR070 との接続部分において大きく拡がるが、概ね約 3.5 m を測る。底部断面形態は浅い U 字形を呈し、深さ約 0.5 ~ 0.7 m である。埋土は概ね粗砂で構成されており、流水状態で堆積したことが想定される。土層の断面観察及び完掘後の流路底の観察によると、検出幅の流路が一時期に存在したわけではなく、検出幅の範囲に、小単位の流路が重複を繰り返しながら存在していたであろうと考えられる。また、流露の東端については、SR070 により壊されているが、これは切り合い部より北側にかつて存在したであろう SR099 旧流路を再利用して SR070 が形成されたためと考えられる。

遺物の出土はほとんどみられず、壺体部片（93）が出土したのみである。弥生時代後期以前に機能していたと考える。

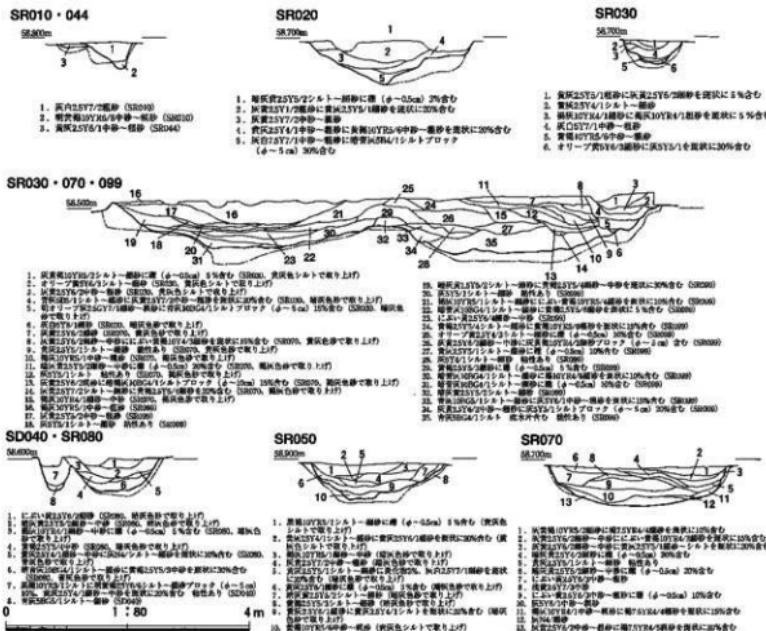


図 19 溝・自然流路土層断面図 (S: 1/40)

SR120（図18-94～102）

AR～AK-2～8区において検出された流路である。調査区西側と調査区北側が途切れているが、北西方向に大きく斜行する。検出幅約3.7mを測る。SR090、SD100、SR140に先行する。流路の規模が大きいこと、及び掘削を行うと周溝墓ST100を破壊してしまうことを考慮して、2箇所にサブトレーンチ（トレーンチ1、トレーンチ2）を設けて、底の確認及び堆積状況の確認を行った。その結果、埋土は概ね2層であり、上層から暗灰色砂層、黄褐色砂層である。底部については、地表下約1.3mまで掘削を行ったが、湧水が激しいうえに、埋土が砂質であるため、安全面を考慮して確認を断念した。埋土の様相から、流水状態での堆積が想定される。

遺物は暗褐色砂より、壺（94）、甕（95、96）、黄褐色砂より弥生土器甕（97～99）、高杯（100、101）、鉢（102）が出土した。黄褐色砂層からは、多量の土器が出土し、この出土量がトレーンチ1の範囲内だけで検出された量であることを考慮すると、かなりの遺物密度が予想される。出土状況は、湧水の激しい砂質層からの出土であつたため、明確にはしがたいが、遺構底部あるいは壁からは浮いた状態であった。

出土した土器の年代より、弥生時代後半から古墳時代初頭には機能していたと考える。

SR134（図18-103～107）

AJ～AK-2～4区において検出された流路である。SR090から分岐し、北西方向に斜行した後、調査区北側へ流れ出す。幅は約1.1mを測る。底部断面形態はU字形を呈し、深さ0.4mである。埋土は概ね2層からなり、上層より暗灰色砂、黄褐色砂である。埋土の様相より、流水状態での堆積が想定される。最終埋没はSR090があとであるものの、切り合い部分の断面観察より、同時並存していた時期もあったと考えられる。

遺物は黄褐色砂より甕（103）、（104）、高杯（105）、小型丸底鉢（106）、土製円盤（107）が出土している。106には内外面ともに赤彩が施されている。

出土した土器の年代より、弥生時代後期末から古墳時代初頭には機能していたと考える。

SR140（図18-108、109）

AL～AN-2～12区において検出された流路である。調査区の東側より流れ込み、北西方向に斜行し、調査区の北側へ流れ出す。SR090・SD100に先行する。流路の規模が大きいこと、及び掘削を行うと周溝墓1を破壊してしまうことを考慮して、2箇所にサブトレーンチ（トレーンチ1、トレーンチ2）を設けて、底の確認及び堆積状況の確認を行った。その結果、埋土は概ね粗い砂層で構成される。底部については地表下1.3mまで掘削を行ったが、湧水が激しいうえに、埋土が砂質であるため、安全面を考慮して確認を断念した。埋土の様相から、流水状態での堆積が予想できる。

遺物は小片ではあるが壺（108）、甕（109）が出土した。出土状況は、湧水の激しい砂質層からの出土であったため、明確にはしがたいが、遺構底部あるいは壁からは浮いた状態であった。

SR154（図18-110、111）

AC～AD-2～4区において検出された流路である。調査区の北西隅に位置するため、平面形等は不明であるが、北東～南西方向を指向するようである。底部断面形態はU字形を呈し、深さ約1.8mである。埋土は概ね粗い砂層で構成され、流水状態での堆積が想定される。

遺物は埋土中より小片ではあるが甕（110）、高杯（111）が出土する。検出面は狭いが、底部は非常に深く、かなり大規模な流路の存在が想定できる。

SR156

AC～AE-4～7区において検出された流路である。SR070・099より分岐し、北西方向に斜行し調査区の西側へ流れ出す。底部断面形態は浅いU字形を呈し、深さ約1.2mである。埋土は概ね粗い砂層で構成される。遺物が出土していないため、時期等は不明だが、分岐位置からSR070あるいはSR099の旧河道と考えられよう。

第3節 古代以降の遺構・遺物

掘立柱建物

SB060 (図20・図22-112)

AB～AE - 8～10区において検出された掘立柱建物である。建物主軸は東西を指向し、梁行2間、桁行3間以上である。柱間は梁行・桁行ともに1.8～1.9mであり、概ね6尺前後ということが出来る。柱掘方は一辺約50cmの隅丸方形を呈し、深さ約0.15～0.35mである。周辺には関連する施設などは確認されず、性格は不明である。

柱掘方より土師器壺(112)が出土しており、それによると9世紀末から10世紀初頭頃に建造されたと考えられる。

SB130 (図20)

AN～AP - 2～4区において検出された掘立柱建物である。建物主軸は南北を指向し、梁行1間、桁行3間以上である。柱間は梁行・桁行ともに1.8～1.9mであり、概ね6尺前後ということができる。柱掘方は一辺約40cmの円形を呈し、抜取穴径は20cm前後である。西側へ1.8m離れた位置に、柱間を同じくする柱列が確認されており、庇のような構造が推測される。周辺には関連する施設等は確認されず、性格は不明である。

遺存状態が良好な遺物はほとんど出土せず、造営年代は不明であるが、素掘溝に先行することから、中世以前と考えられる。

井戸

SE110 (図21・図22-113～115)

AS - 7区において検出された井戸である。掘方の平面形は円形を呈し、直径約0.8m、深さ約0.4mを測る。掘方底部に接するように直径約0.4m、残存高約0.2mの曲物製井戸枠が設置されている。埋土は概ね4層からなり、最上層には井戸枠及び掘方埋土を覆うように褐色砂層が堆積する。井戸枠内埋土は概ね2層からなり、上層より灰色粘土層、白色砂層である。掘方埋土は暗灰色砂層である。

遺物は、土器小片が各層より出土しているほか、井戸枠内白色砂層より、頸部以上を欠くものの、体部以下は完形である須恵器壺(115)が出土した。出土状況は井戸底部に直立する形であった。なお、曲物製井戸枠については状態が極めて悪く、観察に耐える状態で取り上げることは出来なかった。

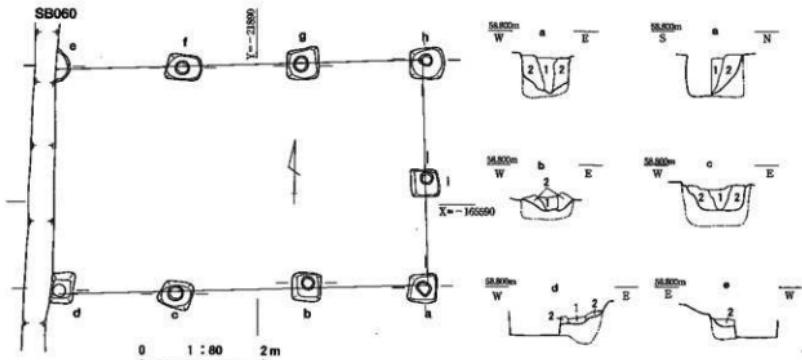
枠内より出土した土器の年代から、9世紀末から10世紀前半に機能していたものと考えることができる。また、枠内底部に直立して出土した須恵器壺の存在は、井戸に関する何らかの祭祀催行の可能性を想定させる。

土坑

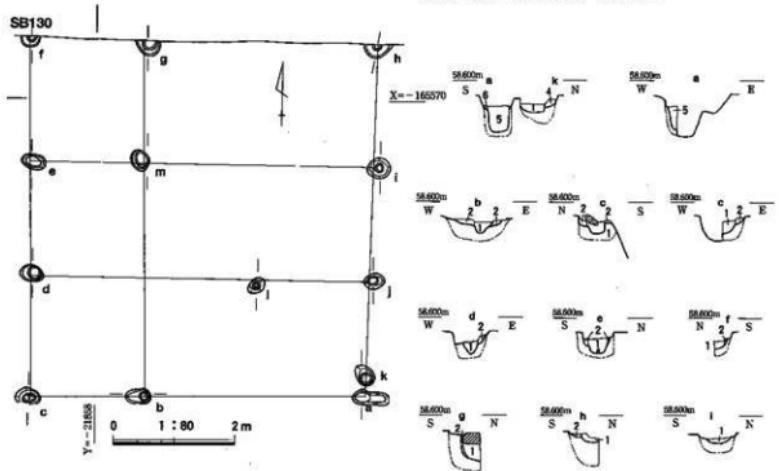
SK102 (図21・図22-116)

AH～AI - 14～15区において検出された土坑である。平面形は方形を呈し、長辺約3.7m、短辺約2.5mを測る。底部断面形態は浅いU字形を呈し、深さ約0.5mである。埋土は1層からなり、灰色シルトからなる。埋土には地山土のブロックが多く含まれ、埋め戻された様相を示している。

遺物は、埋土中より土器小片が出土したほか、土坑南端寄りの地点から、完形の瓦器椀1点が出土した。出土状況は、土坑底部から若干浮いた位置に、口縁部を斜め上方へ向けた状態であった。このことからは、ある程度土坑の埋め戻しが進んだ段階で瓦器椀を配置し、再び埋め戻したという過程が想定される。かなり方形に近い



1. 極75YR4/6中砂+粗砂に黄灰25Y6/1中砂を表面に20%含む
2. 黄灰褐10YR5/2中砂+粗砂に黄灰25Y6/1中砂を表面に30%含む
3. 黄5Y5/1シルトにブロック（φ=5 cm）10%含む



1. 銀灰10YR4/1細砂～シルトに黒10YR4/6細砂を斑状に30%含む
2. 黄灰褐10YR4/2細砂～シルト
3. 黄灰褐2.5YR5/2細砂
4. 暗オリーブ5/2細砂に銀灰10YR5/1シルト～細砂を斑状に10%含む
5. 銀灰10YR4/1シルト～細砂に黒10YR4/6シルトブロック(φ=5 cm) 20%含む
6. に黒10YR4/2シルト～細砂
7. 黄灰2.5YR5/2シルト～細砂

0 1 : 40 2 m

図 20 SB060・130 平面図 (S : 1/80)・土層断面図 (S : 1/40)

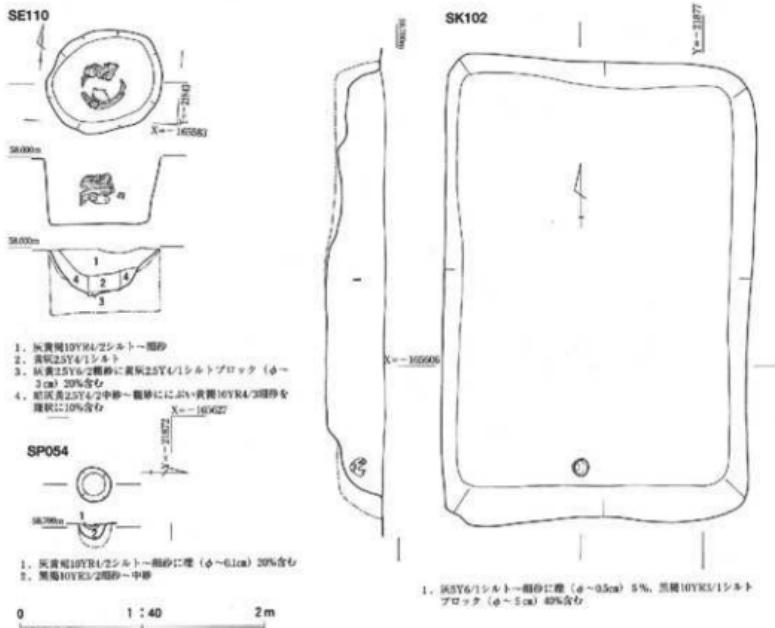


図21 SE110・SK102・SP054 平面・土層断面図 (S:1/40)



図22 古代以降出土遺物実測図 (S:1/3)

平面形態に、埋め戻しが行われていること、および完形瓦器焼が出土していることは、特徴的であるが、遺構の性格については不明である。

出土した土器の年代より、11世紀末から12世紀初頭に廃絶したものと考えることができる。

ピット

SP054 (図21・図22-117)

AJ-22区において検出されたピットである。平面形は円形を呈し、直径約0.28mである。底部断面形態は逆台形を呈し、深さ約0.1mである。埋土は概ね2層からなり、上層より

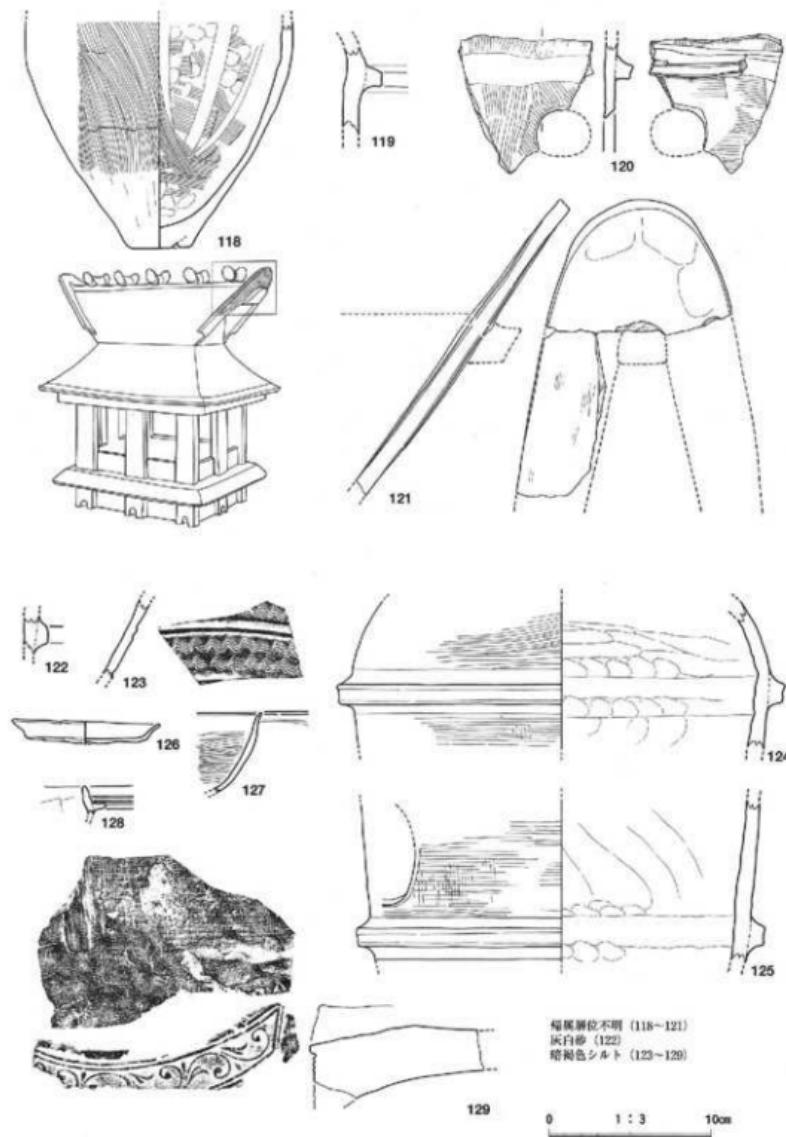


図23 遺構検出面・包含層出土遺物実測図 (S:1/3)

灰色砂、黒褐色砂である。検出面より土師器の杯（117）が出土している。

出土した土器の年代より、10世紀前半には機能していたものと考えることができる。

第4節 包含層出土の遺物（図23）

弥生土器甕（118）、円筒埴輪（120）、家型埴輪（121）は帰属層位が不明である。灰白色砂より、円筒埴輪（122）、暗褐色シルトより須恵器高杯（123）、円筒埴輪（124、125）土師器皿（126）、黒色土器A類椀（127）、瓦器小型釜（128）、軒平瓦（129）が出土している。121は入母屋型屋根の部分の破片である。

家型埴輪や円筒埴輪の存在より、遺構としては存在していないが調査地内もしくは近傍に古墳があったことが示唆される。

第4章 総括

今回の調査では、弥生時代後期の方形周溝墓や弥生時代から古墳時代にかけての流路などを検出した。方形周溝墓は、2004年度調査の調査区西側で検出された弥生時代後期から庄内式期の方形周溝墓群に含まれると考えることができる。本調査区では、方形周溝墓の検出は1基にとどまり、西側には同時期の自然流路が数条検出されている。自然流路の埋没は弥生時代後期から古墳時代前期にかけて進んでいるため、この方形周溝墓と自然流路は同時期に存在していたこととなる。したがって、弥生時代後期から古墳時代前期初頭の方形周溝墓域の西は自然流路により限られていると言えることができる。墓域の東側では弥生時代中期の方形周溝墓群が存在しており、これより東に連続するとは考えがたく、2004年度調査の成果を加味すると、この墓域は東西150mの範囲に収まることが分かる。

また一方、2004年度調査区では弥生時代中期に属する方形周溝墓19基が検出されているが、本調査区では検出されておらず、弥生時代中期の墓域が本調査区まで拡がらないことが明らかになった。このことから、2004年度調査のSR550が弥生時代中期の墓域の西側を限っていたものと考えができる。弥生時代後期から古墳時代前期初頭にかけての墓域の決定に当たっては、弥生時代中期の墓域との関係性が意識されたことがうかがえる。

自然流路については、重複して検出されていることもあり、下層にある流路の遺物がまきあげられた結果、出土した遺物は弥生時代後期から古墳時代前期にかけての比較的長期間に渡っている。大規模なものはなく、比較的小規模なものが進路を変えながら機能していたと考えることができる。また、SR020では杭列が検出され、積極的に利用されていたことも判明した。同様のものは第20次調査でも確認されている。

以上のように、今回の調査では墓域及びそれを取り巻く自然流路について多くの情報を得ることができ、既往の調査の成果も加えると弥生時代から古墳時代にかけて連繩と墓域が営まれたことが判明した。しかしながら、集落域についてには、曲川遺跡において、弥生時代から古墳時代にかけての住居跡の調査例は調査面積に比して極めて少なく、第15～17次調査において検出された5棟のみである。これらも弥生時代後期末から古墳時代前期初頭のものであり、弥生時代中期の墓域を築造する母体となる集落跡は確認されていない。今後の調査での解明が待たれる。

関連資料

図 24 検出遺構略則図・遺構仮番号配置図

表 1～4 掲載遺物一覧 (1)～(4)

表 5～6 検出遺構および出土遺物一覧 (1)～(2)

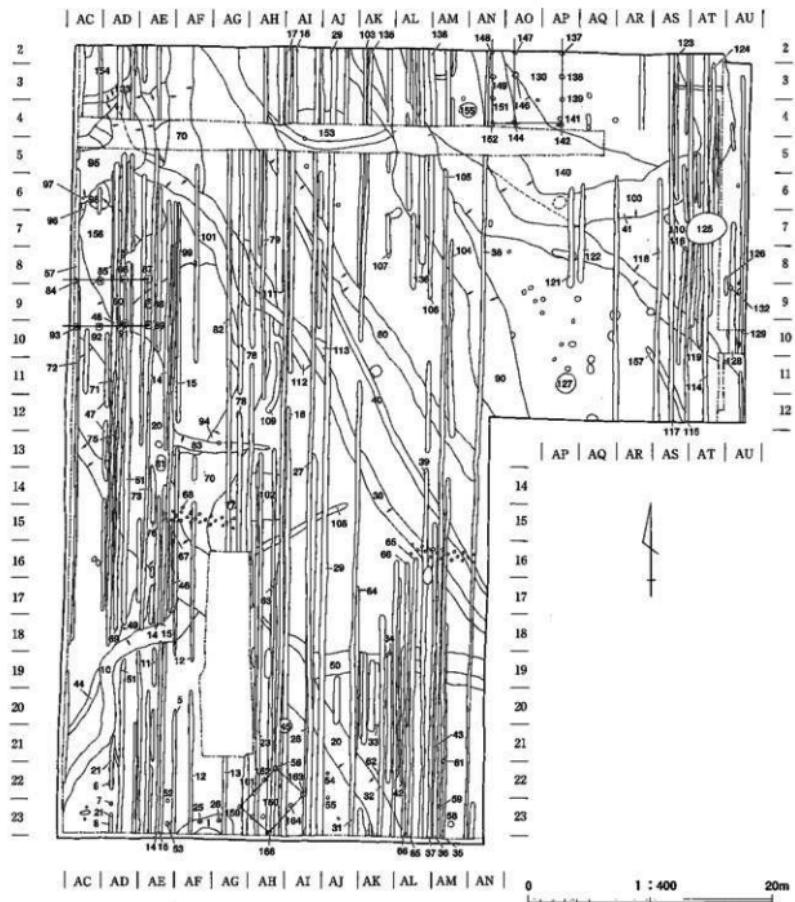


図24 検出構造略測図・構造番号配置図 (S:1/400)

表1 掘藏遺物一覧(1)

報告 番号	出土場 所	種別 標印	口径・高さ・底径 (cm) 長さ・幅・厚 度厘米	胎土	焼成 色調	特徴 (調整・文様・形態)	特記事項
1 ST 100	弥生土器 裏	* - (4.5) - 3.9 底部のみ	やや粗: 3mm以下の石 英・長石・雲母・クサ リ織	丸 焼成度 10YR8 / 3	(外) 体側下部ヨコ方向のタキギをナデ施す (内) 体側ヨコ方向のタキギ		
2 ST 100	弥生土器 高杯	* - (4.0) - 底部のみ	やや粗: 4mm以下の石 英・長石・クサリ織	丸 焼成度 10YR7 / 3	(外) 腹部ヨコ方向の浅タキギマキ 腹部横行に押出の通孔現存 (内) 腹部・底部ナデ		
3 ST 100	弥生土器 裏	(18.7) - 22.4-2.0 45%	やや粗: 4mm以下の石 英・長石・クサリ織	不直 焼成度 10YR8 / 3	(外) 口縁部ヨコ方向のタキギマキ 体側上部ヨコ方向の下部右上がりの平行タキギ 体側ヨコ方向のナデ	内面底部附近に黒斑	
4 S E 127	弥生土器 馬蹄形	(28.3) - (5.7) *	やや粗: 4mm以下の石 英・長石・雲母	丸 焼成度 10YR6 / 4	(外) 体側ヨコ方向の底部ナデ 底部のため不明だ、手押ヨカハケ残存		
5 S E 127	弥生土器 馬蹄形	(12.9) - (5.8) *	やや粗: 6mm以下の石 英・長石・雲母・クサ リ織	丸 焼成度 2.5Y7 / 2	(外) 口縁部ヨコ方向のタキギマキ 底部ヨコ方向のナデ		
6 S E 127	弥生土器 馬蹄形	(18.5) - (2.5) *	やや粗: 2mm以下の石 英・長石・雲母・クサ リ織	丸 焼成度 10YR7 / 3	(外) 口縁部ヨコ方向のタキギマキ 4mm後、ヨコナデ	外面糊付帯	
7 S E 127	弥生土器 馬蹄形	(18.6) - (1.9) *	やや粗: 2mm以下の石 英・長石・雲母・クサリ織	丸 焼成度 10YR7 / 4	(外) ヨコナデ・口縁部部を上方にこねみ上げる (内) ヨコナデ		
8 S E 127	弥生土器 馬蹄形	(3.4) - 3.6 底部のみ	やや粗: 2mm以下の石 英・長石・雲母	丸 焼成度 2.5Y7 / 2	(外) 口縁部ヨコナデ・一部タキギマキ残存 (内) ヨコ方向のハケ		
9 S E 127	弥生土器 馬蹄形	13.1 - (3.2) - 3.2 70%	やや粗: 2mm以下の石 英・長石・雲母	丸 焼成度 2.5Y7 / 3	(外) 体側下部右上がりの平行タキギ底 底部ナデ (内) 体側ナデ上げ、表面糊的なヨサエ	外面部底	
10 S E 127	弥生土器 高杯	* - (5.7) *	やや粗: 3mm以下の石 英・長石・クサリ織	丸 焼成度 10Y R 7 / 4	(外) 底部ヨコナデ・脚付部タキギマキ 4mm後、ヨコナデ		
11 S E 127	弥生土器 馬蹄形	* - (4.8) - *	やや粗: 3mm以下の石 英・長石・クサリ織	丸 焼成度 2.5Y5 / 2	(外) 体側上部横筋状 (内) オサエ・ナデ		
12 S E 127	弥生土器 馬蹄形	* - (4.2) - *	やや粗: 2mm以下の石 英・長石・雲母	丸 焼成度 10Y R 7 / 3	(外) LI線部ヨコナデ・体側弱いタキギハケ (内) 口縁・体側ヨコナデ	内外面糊付帯	
13 S E 127	弥生土器 馬蹄形	* - (6.0) - (4.1) 底部のみ	やや粗: 4mm以下の石 英・長石・雲母	丸 焼成度 10Y R 7 / 2	(外) 体側下部右上がりの平行タキギ底 底部ナデ (内) 追加ヨコナデ	外面部全体に糊付帯	
14 S E 127	弥生土器 馬蹄形	* - (3.0) - (3.6) 底部のみ	やや粗: 4mm以下の石 英・長石	丸 焼成度 7.5Y7 / 1	(外) 底部追加ナデ (内) ナデ	焼成前穿孔	
15 S E 127	弥生土器 馬蹄形	(10.6) - (5.1) - 10%	底: 3mm以下の石英・ 長石・クサリ織	丸 焼成度 10Y R 7 / 3	(外) 口縁端ヨコナデ 窓部上部ヨコヨリ後タキギマキ。窓部下部タキギマキ (内) 窓部上部・下部ヨコナデ		
16 S E 127	弥生土器 馬蹄形	* - (7.4) - (10.4) 底部のみ	底: 2mm以下の石英・ 長石・雲母	丸 焼成度 2.5Y7 / 2	(外) 窓部追加段階で数段の窓孔を連続して穿孔 窓部端部に強烈な糊跡 (内) 追加はよく保護せずに、窓部に盛り上がる		
17 S E 127	木綿 糊シルト 糊付材	(46.4) - 11.4 - (9.5)		丸		芯持材	
18 S K 045	弥生土器 馬蹄形	* - (5.3) - *	中粗: 2mm以下の石 英・長石	丸 焼成度 2.5Y8 / 3	(外) 減削ナデ (内) 脚付ナデ		
19 S K 055	弥生土器 馬蹄形	* - (4.5) - *	中粗: 1mm以下の中 粗: 長石・雲母	丸 焼成度 10YR5 / 2	(外) タキギ底 (内) ワニナデ		
20 S K 055	弥生土器 馬蹄形	* - (3.4) - *	中粗: 1mm以下の中 粗: 長石・雲母	丸 焼成度 10YR4 / 2	(外) タキギ底 (内) ナデ		
21 S D 001	土器糊 糊付材	* - (2.5) - *	中粗: 2mm以下の石 英・長石	丸 焼成度 2.5Y7 / 3	(外) 口縁部ヨコナデ (内) 口縁部ヨコナデ		
22 S D 153	土器糊 糊	* - (3.7) - *	中粗: 2mm以下の石 英・長石	丸 焼成度 7.5Y R 5 / 4	(外) 体側上部右上がりの平行タキギ底 底部タキギ (内) 脚付ナデ後ナデ 底部追加ヨコナデ		
23 S R 020	土器糊 糊シルト	(13.1) - (3.4) - 口縁部のみ 30%	底: 5mm以下の石英・ 長石・雲母	丸 焼成度 10Y R 7 / 6	(外) 口縁部ヨコナデ 底部ヨコ方向にタキギハケ (内) 口縁部弱いヨココケ 窓部ヨコ方向カスツリ		
24 S R 020	土器糊 糊シルト 糊付	* - (12.7) - (8.4) 底部のみ 50%	底: 3mm以下の石英・ 長石・雲母・クサリ織	丸 焼成度 7.5Y R 7 / 6	(外) タキギ後、ナメ方向のハケ 3mm後円筒形糊付 (内) 窓部ナメハケ残存 糊付に片麻岩質		
25 S R 020	土器糊 糊	(12.4) - (8.5) - 30%	底: 5mm以下の石英・ 長石・雲母・クサリ織	丸 焼成度 7.5Y R 6 / 4	(外) 口縁部ヨコナデ 底部ヨコヨリ後ナデ (内) ナデ	外面部付帯	
26 S R 020	土器糊 糊	* - (2.7) - 3.7 底部のみ	やや粗: 4mm以下の石 英・長石	丸 焼成度 2.5Y8 / 1	(外) 口縁部ヨコナデ (内) 直接工具によるナデ	外面部二次焼成受ける 糊付帯	
27 S R 020	土器糊 糊	* - (3.3) - *	やや粗: 3mm以下の長 石・雲母・クサリ織	丸 焼成度 5YR5 / 6	(外) 原底のため不明だが、細いヨコナデ 糊付		
28 S R 020	土器糊 糊シルト	14.6 - (7.0) - 100%	粗: 5mm以下の石英・ 長石・雲母・クサリ織	丸 焼成度 2.5Y7 / 3	(外) LI線部追加糊付後、凹円筒形を貼り付け 糊付はタキギハケ、下方方向のナデ (内) 脚付ヨコナデ・口縁部付近をナデ消し 糊付にシリコン入り、遮光紙		
29 S R 020	土器糊 糊シルト	(13.8) - (6.3) - 底部のみ 30%	粗: 4mm以下の石英・ 長石・雲母・クサリ織	丸 焼成度 2.5Y7 / 4	(外) 口縁部下方にキザミ点文 (内) 口縁部ヨコナデ・糊付部オサエ後ナデ		
30 S R 020	弥生土器 糊	* - (3.0) - *	やや粗: 2mm以下の石 英・長石・雲母	丸 焼成度 5Y7 / 3	(外) 番揚表文と番揚裏文を父兄に配す (内) ヨコナデ		

表2 掘藏遺物一覧(2)

報告番号	出土遺構 層位	種別 器種	口径・底面・周長(直径) 長さ・幅・厚 既存率	胎土	焼成 色調	特徴(形態・文様・形態)	特記事項
31 S R 020	赤生土層 青灰シルト 層	* - (3.6) - 4.4 底面のみ 90%	幅:4mm以下の石英・ 長石・カサリ繊	良 焼成度 10YR8 / 4	(外) 備い右上りがりの平行タキ (内) ナデ		
32 S R 020	赤生土層 青灰シルト 層	* - (3.9) - (2.9) 底面のみ 50%	幅:1mm以下の石英・ 長石・雲母	良 焼成度 2.5Y7 / 2	(外) 体部下半に平行タキ残存 (内) タテ方向のナデ		
33 S R 020	赤生土層 青灰シルト 層	* - (5.0) - * 口縁部断片	幅:3mm以下の石英・ 長石・チャート	良 焼成度 2.5Y7 / 4	(外) 口縁部はオサニ後ナデ 口縁部附近にやや下向の把手を付ける (内) 口縁部はオサニ後ナデ	内面風呂	
34 S R 020	赤生土層 青灰シルト 層	* - (6.0) - * 30%	幅:2mm以下の石英・ 長石・カサリ繊	良 焼成度 7.5Y R 6 / 6	(外) 積み方によるナデ (内) 胎土ナデ 既存部表面に薄塗れあり		
35 S R 020	赤生土層 青灰シルト 層	* - (7.1) - (16.6) 底面のみ 40%	幅:1mm以下の石英・ 長石・雲母・カサリ繊	良 焼成度 10YR6 / 6	(外) 領辺部・断面糊手明 (内) 領辺部シボリメ、断面糊ヨコハケ		
36 S R 020	石英 既存	3.4 - 6.3-1.2 重量: 18.5					石材: サクカイト 白板岩
37 S R 030	土師器 青灰シルト 層	(23.2) - (3.8) - * 口縁部のみ 20%	やや粗: 2mm以下の石 英・長石・雲母	良 焼成度 10Y R 7 / 2	(外) 口縁部に非常に細かいタチミガキ 断面に2箇所の貼り付け円形模印文を施す (内) 口向付近にヨコ方向のオサエ 底面のため不明		
38 S R 030	木	* - (4.0) - 3.0 底面のみ 100%	やや粗: 3mm以下の石 英・長石・カサリ繊	良 焼成度 5YR5 / 8	(外) 断面糊のため不明、底面付近にヨコ方向のオサエ (内) 口向付近のハケ、断面を複数に切離せる		ミニチュア製品?
39 S R 030	赤生土層 既存	* - (4.2) - * 口縁部断片	やや粗: 3mm以下の石 英・カサリ繊	良 焼成度 7.5Y R 6 / 6	(外) オサニ後、ナデ (内) ヨコナデ		
40 S R 030	木柄 既存	(11.2) - 4.0 - (3.0)					広葉樹、赤持木材 先端部の加工は4面
41 S R 030	木柄 既存	(17.3) - 5.5 - (4.5)					広葉樹、赤持木材 部分的に再び施庄作
42 S R 050	土師器 青灰シルト 層	(27.6) - (11.0) - * 10%	やや粗: 3mm以下の石 英・長石・雲母・カサ リ繊	良 焼成度 7.5Y R 6 / 6	(外) 口縁ナデ、一部タチミガキ残存 体部ヨコヒメタキタウナデ (内) 口縁ヨコゴミ 体部斜面工具によるヨコ方向ナデ	片口	
43 S R 050	土師器 既存	* - (4.8) - * 口縁部断片	やや粗: 2mm以下の石 英・長石	良 焼成度 10Y R 7 / 3	(外) ナデ (内) ヨコナデ		
44 S R 050	土師器 既存	* - (3.1) - * 体部断片	やや粗: 0.5mm以下の石 英・長石	良 焼成度 10YR6 / 1	(外) ヨコ方向の平行タキ (内) オサニ後ナデ		
45 S R 083	土師器 青灰シルト 層	(14.1) - (26.2) - * 口縁部 25% - 体部	やや粗: 3mm以下の石 英・カサリ繊	良 焼成度 7.5Y R 6 / 6	(外) 口縁ナデ、間にかかるにヨコハケ残存 体部ヨコヒメタキタウナデ (内) 口縁ヨコゴミ 体部斜面工具によるヨコ方向ナデ		
46 S R 083	土師器 既存	* - (1.8) - * 口縁部断片	やや粗: 3mm以下の石 英・無石	良 焼成度 7.5Y R 7 / 5	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ		底部欠損
47 S R 070	土師器 既存	(22.0) - (3.2) - * 口縁部のみ 25%	やや粗: 5mm以下の長 石・カサリ繊	良 焼成度 7.5Y R 5 / 4	(外) 体部ヨコタチ・ケタナデ消失 部分からは底なし (内) 成型のもの複数ハケ		
48 S R 070	赤生土層 既存	* - (4.4) - 4.8 底面のみ 100%	やや粗: 4mm以下の長 石・カサリ繊	良 焼成度 7.5Y R 7 / 4	(外) タチミガキナデ (内) 褶曲するもの複数ハケ		
49 S R 070	土師器 既存	* - (3.3) - * 口縁部断片	やや粗: 4mm以下の長 石・カサリ繊	良 焼成度 2.5Y7 / 2	(外) 口縁・体部ヨコヒメタチ (内) 体部・体部ヨコヒメタチ		外面口縫部復元前
50 S R 070	土師器 既存	14.4 - 7.0-4.0 底面のみ 100%	やや粗: 5mm以下の長 石・カサリ繊	良 焼成度 2.5Y6 / 3	(外) 口縁ナデ、体部左上がりの平行タキ (内) 体部全体にナデ、一部ナデ消し前の ヨコヒメタチ・粘土結合部		
51 S R 070	土師器 既存	* - (4.1) - * 口縁部断片	やや粗: 4mm以下の石英・ 長石・カサリ繊	良 焼成度 7.5YR7 / 2	(外) 口縁ヨコゴミ、間にかかるにタチミガキ残存 (内) 体部ヨコヒメタキナデヨコナデ		外縫口縫部復元前 斜糸(在庫)・土糸
52 S R 070	木柄 既存	(57.3) - 9.3-4.0			先端部の加工は4面		芯材・芯材
53 S R 070	木柄 既存	(12.2) - 4.4 - (3.9)			先端部の加工は5面		芯材・芯材
54 S R 070	木柄 既存	(13.2) - 4.0-3.9			先端部の加工は6面		芯材・芯材
55 S R 070	木柄 既存	(20.4) - (4.8) - *			合体・底面を著しく、加工などは不明		板目材
56 S R 070	木柄 既存	39.3 - 10.2-2.2			削材部と見えられる部分にヨコ方向の加工痕		板目材
57 S R 070	木柄 既存	(33.0) - 4.9-4.7			先端部の加工は6面		芯材・芯材 板目材
58 S R 070	木柄 既存	(61.9) - 6.8-5.2			先端部の加工は6面		芯材・芯材 板目材
59 S R 070	木柄 既存	(67.7) - 10.2-7.0			先端部の加工は6面		芯材・芯材 板目材
60 S R 070	木柄 既存	(40.3) - (34.8) - 3.3 高: 9.9			成形・体部左上がりのヨコ方向の加工痕		平面形は椭丸長方形 板木取り
61 S R 090	土師器 既存	13.6 - (7.3) - * 口縁部 90%	やや粗: 3mm以下の長 石・カサリ繊	やや不良 焼成度 7.5Y R 6 / 4	(外) 口縁ヨコナデヨコゴミ 体部のすぐ左平行タキ・ヨコヒメタチ (内) 口縁ヨコナデヨコゴミ、体部ヨコハケ		
62 S R 090	赤生土層 既存	* - (16.5) - * 底面のみ 30%	やや粗: 3mm以下の石 英・長石・雲母・カサ リ繊	良 焼成度 5Y R 5 / 4	(外) 口縁・体部ヨコヒメタチ (内) 口縁ヨコナデヨコゴミ、体部の結合部近オサエ残存、 体部ヨサエ後タチ方向のナデ、粘土結合痕		
63 S R 090	土師器 既存	(16.4) - (5.0) - * 口縁部 25%	やや粗: 5mm以下の長 石・カサリ繊	良 焼成度 7.5Y R 5 / 4	(外) 口縁ヨコナデヨコゴミ 体部ヨコナデヨコゴミ		

表3 掘削遺物一覧(3)

報告 番号	出土遺物 層位	種別 標識	口径・層高・底径(cm) 底古・幅・厚 度かぶり	地土	地成 色調	特徴(陶器・木器・形態)	特記事項
64	S R 090	土師器 底	(11.0) - (5.0) *	底: 2mm以下の石英、 長石・雲母・カリ沸 酸化率 20%	良 にふい黄褐 10Y R 6 / 3	(外) 口縁部ヨコナギ、体部右上がりの平行タキ裏 (内) LI縁部ヨコナギ、体部状工具によるナデ	
65	S R 090	土師器 底	* - (2.5) - (5.0) 底部のみ 50%	底: 3mm以下の石英、 長石・雲母	良 にふい黄褐 10Y R 6 / 4	(外) 歪曲輪ヨサエナナデ (内) ナナデ	
66	S R 090	土師器 底	(21.2) - (14.6) *	底: 2mm以下の石英、 長石・雲母・角閃石 酸化率 20%	良 にふい黄 2.5Y6 / 3	(外) LI縁部ヨコナギ、体部左上がりの平行タキ裏。 下部の一部にタマケ残存 (内) 口縁部ヨコナギコケト草にナデ消し 底部形状もヨサエナナデ	外因復元付
67	S R 090	土師器 高井	* - (4.1) *	底: 4mm以下の石英、 長石・雲母・カリ沸 酸化率 10%	良 にふい黄 2.5Y6 / 4	(外) 仰脚と肩部との接合付近にオサエ底残存 (内) 仰脚ナナデ	
68	S R 090	土師器 底	(4.8) *	底: 1mm以下の石英、 長石・カリ沸 酸化率 10%	良 明褐色 7.5YR5 / 6	(外) 部分的にヨコミガキ残存 (内) 縁部ヨコミガキ残存	
69	S R 090	土師器 底	* - (6.0) *	底: 3mm以下の石英、 長石・カリ沸 酸化率 10%	良 7.5YR6 / 6	(外) 斜傾底のため不明 (内) 傾斜部付近にヨコミガキ、肩部ズクリカ?	
70	S R 090	弥生土器 底	14.0 - (5.0) *	底: 3mm以下の石英、 長石・雲母 酸化率 60%	良 にふい黄褐 10Y R 7 / 3	(外) 口縁部は通常ヨガミ後、浅い半円文を施す (内) ヨコミガキ	
71	S R 090	弥生土器 底	* - (5.5) - 7.2 底部のみ 100%	底: 2mm以下の石英 底部のみ 100%	良 灰白 2.5Y7 / 1	(外) ヨコハナナデ残存 (内) 工具痕跡付	
72	S R 090	弥生土器 底	* - (10.3) *	やや粗: 3mm以下の石 英・長石・カリ沸 酸化率 10%	良 にふい黄褐 10Y R 7 / 3	(外) 体部上部全体にタテミガキ半分、腹部との界線附近に ヨコミガキ、波打文、異文を施す (内) オサエナナデ、點状暗緑色斑あり	内面黒色
73	S R 090	土師器 底	* - (3.7) *	底: 3mm以下の石英、 長石・カリ沸 酸化率 10%	良 7.5YR7 / 4	(外) ヨコナデ (内) ヨコヨコナデ	
74	S R 090	土師器 底	(2.1) - 2.2 底部のみ 100%	やや粗: 4mm以下の石 英・長石・カリ沸 酸化率 10%	良 灰白 2.5Y5 / 2	(外) 底盤部・内はヨサエナナデ (内) くもの状状に具痕付	
75	S R 090	土師器 底	* - (7.0) - 2.8 底部のみ 100%	底: 2mm以下の石英、 長石・雲母・カリ沸 酸化率 10%	良 灰黄 2.5Y6 / 2	(外) 体部下部・底ヨコナナメハナ (内) タマケ付	内・外因復元付
76	S R 090	土師器 轟台	8.9 - 7.8-12.3 95%	底: 3mm以下の石英、 長石・雲母・カリ沸 酸化率 95%	良 明褐色 5YR5 / 6	(外) 口縁部ヨコナギ、仰脚・脚部全体に細いヨコミガキ 底部の凹凸は3方向 (内) 仰脚部のため不明 脚部はヨコハナナデ残存、ボリューム残存	
77	S R 090	土師器 高井	* - (7.2) *	やや粗: 4mm以下の石 英・長石・雲母 脚部付	良 明褐色 5YR5 / 6	(外) 斜傾底のため不明、一部ヨコミガキ残存 (内) くもの状状に工具痕跡	
78	S R 090	弥生土器 底	* - (8.9) - (14.3) 脚部付	やや粗: 2mm以下の石 英・カリ沸 酸化率 100%	良 灰黄 2.5Y7 / 2	(外) 斜傾底ヨコハナナデタマニガキ 底部の凹凸は複数4方向 (内) 脚柱ヨコボリヤク、遷移オサエ後ナデ	
79	S R 090	土師器 轟台	* - (6.0) *	やや粗: 3mm以下の石 英・長石・カリ沸 脚部合板付	良 灰黄 2.5Y7 / 3	(外) 斜傾底のため不明、 (内) 斜傾底のため、不明	
80	S R 090	土師器 轟台	* - (6.8) *	やや粗: 1mm以下の石 英・長石・カリ沸 脚部合板付	良 にふい黄褐 10Y R 7 / 4	(外) 仰脚・工具痕跡付 脚部ヨコナデ	
81	S R 090	弥生土器 高井	* - (9.8) - 14.1 脚部のみ 100%	やや粗: 4mm以下の石 英・長石 酸化率 100%	良 にふい黄 7.5Y R 6 / 4	(外) 仰脚・脚部タカ方向のミガキ 底部の凹凸は6方向 (内) 脚柱ヨコボリヤク、遷移オサエ後ナデ	風塵あり
82	S R 090	石器 石器	2.3 - 1.7-0.5 重量: 1.0 - 100%		骨・鹿頭押注器		石材: サラカイト 基盤無式
83	S R 090	石器 剥片	(5.5) - 2.7-0.6 重量: 8.6				
84	S R 095	弥生土器 底	* - (2.0) *	やや粗: 2mm以上の石 英・長石・雲母 脚部合板付	良 灰黄 10YR6 / 2	(外) 口縁埋面に円形に窓む。厚年の剥落した痕か? (内) ヨコナデ	
85	S R 095	土師器 底	(9.2) - (5.8) *	やや粗: 4mm以下の石 英・長石・カリ沸 酸化率 30%	良 7.5Y R 7 / 6	(外) 斜傾底のため不明 (内) LI縁部ヨコミガキ、遷移オサエ	
86	S R 095	土師器 底	* - (2.7) *	底: 3mm以下の石英、 長石・カリ沸 酸化率 100%	良 7.5Y R 7 / 6	(外) 体部下部ナナデ (内) ヨコナデ後、脚部状にナナデ上げる	
87	S R 095	弥生土器 轟台	* - (12.8) - (4.2) 底部のみ 50%	やや粗: 3mm以下の石 英・長石・カリ沸 酸化率 100%	良 7.5Y R 8 / 4	(外) やや左にがりの平行タキ (内) 強版工痕	
88	S R 095	土師器 轟台	* - (5.2) *	やや粗: 3mm以下の石 英・長石・カリ沸 脚部付	良 灰黄 2.5Y8 / 3	(外) 仰脚上部ヨコハナナデミガキ、下厚底のため不平 (内) 仰脚上部ヨコハナナデミガキ、下厚ヨコ・タチミガキ	
89	S R 095	土師器 轟台	* - (5.4) - 脚部付	やや粗: 4mm以下の石 英・長石・カリ沸 脚部付	良 灰黄 2.5Y7 / 2	(外) 口縁部ヨコナギ、体部上半オサエ後ナデ (内) 工具痕跡付、口縁部に細い状態追付	
90	S R 095	土師器 轟台	* - (7.4) - 12.7 脚部のみ 80%	底: 2mm以下の石英、 長石・雲母	良 灰黄 2.5Y8 / 3	(外) 斜傾部ヨコミガキ、脚部付近オサエ 内部との破壊断面に棒状工具によるオサエ痕跡付 (内) 斜傾全體にヨコハナナナデ	
91	S R 095	土師器 轟台	* - (7.4) - (11.1) 脚部のみ 10%	底: 2mm以下の石英、 長石・雲母	良 5Y R 6 / 6	(外) ナナデ (内) ナナデ	
92	S R 095	土師器 轟台	5.9 - 4.1-3.0 70%	底: 3mm以下の石英、 長石・雲母	良 灰黄 2.5Y6 / 2	(外) 体部ナナデ、底部付近オサエ (内) 指ナナデ	ミニチュア製品?
93	S R 099	弥生土器 底	* - (6.3) *	やや粗: 2mm以下の石 英・長石・カリ沸 脚部合板付	良 5Y R 6 / 6	(外) 斜傾部タカ方向のミガキ (内) 脚部ナナデ、脚部部の脚部付近にオサエ	
94	S R 120	土師器 底	* - (3.0) *	やや粗: 3mm以下の石 英・長石・カリ沸 脚部合板付	良 7.5Y R 7 / 6	(外) 口縁部ヨコナデ (内) 口縁部ヨコナギ	
95	S R 120	土師器 底	* - (3.0) *	やや粗: 3mm以下の石 英・長石・雲母 脚部合板付	良 2.5Y7 / 3	(外) 斜傾部ヨコハナケ、脚部オサエ、タチ方向のナナデ	
96	S R 120	土師器 底	* - (3.7) - 3.8 底部のみ 100%	やや粗: 3mm以下の石 英・長石	良 にふい黄褐 10Y R 7 / 3	(外) 体部下端高い左上がりの平行タキ裏 (内) くもの状状ナナデ	内面復元付
97	S R 120	土師器 底	(16.9) - 3.0*	底: 1mm以下の石英、 長石・雲母 脚部合板付 10%	良 IC. にふい黄褐 10Y R 7 / 4	(外) LI縁部ヨコナギ、底部は内面ぎみに立ち上がる (内) オサエ後、ナナデ	

表4 掘藏遺物一覧 (4)

報告番号	出土遺構 層位	種別 器形	口径・底面・壁厚 長さ・幅・厚 度・深さ	施土	焼成 色調	特徴(箇数・文様・形態)	特記事項
98	S R 120 焼却炉	生土柱 燒却炉	* - (4.8) * 底面のみ 100%	やや粗: 6cm以下の石・ 瓦石・陶器・チャート・ 貝殻	灰白 10Y R 8 / 2	(外) 体部下半側に右上がりの平行タキ痕 (内) 粗いものの焼却ハケ	
99	S R 120 焼却炉	生土柱 燒却炉	* - (2.8) * 底面 100%	やや粗: 3cm以下の石・ 瓦石・瓦片・セメント	灰 10Y R 8 / 3	(外) 体部下半側に右上がりの平行タキ痕 (内) 成型不良痕	
100	S R 120 高周砂 ホタル	土師器 杯部片	* - (6.0) * 底面	やや粗: 4cm以上トロ石 瓦・長石・陶器・ リビン	灰青焼 10Y R 5 / 2	(外) 杯部ナデ (内) 杯部タチミボキ	内面糊痕既読
101	S R 120 高周砂	土師器 脚部片	* - (7.6) * 底面	やや粗: 3cm以下の石・ 瓦・長石・陶器・ リビン	7.5Y R 7 / 6	(外) 枝張・脚部ナデ (内) 脚部シザーハケ	
102	S R 120 高周砂	土師器 体部断片	* - (1.13) * 底面	やや粗: 2cm以下の石・ 瓦石・陶器・チャート	灰 7.5Y R 7 / 4	(外) 体部下半側タキハケ 体部上半・口縁部ヨコミガキ (内) 口縁部付近焼却のため不均 体部下半ヨコミガキ	
103	S R 134 焼却炉	生土柱 焼却炉	* - (3.1) * 底面のみ 75%	やや粗: 3cm以下の石・ 瓦石・陶器・カリ繩	灰 10Y R 6 / 4	(外) 体部下半タキテ方向の平行タキ痕。底部オサエ ナデ	
104	S R 134 焼却炉	土師器 台付鉢	(10.4) - (4.9) - 7.5	やや粗: 4cm以下の石・ 瓦・長石・陶器・ カリ繩	灰 10Y R 4 / 4	(外) 伴件に半埋蔵したため不明。頭部タチミガキ残存 将燃焼感のため不均。頭部ナデ (内) 伴件・頭部既読のため不明。頭部ナデ	
105	S R 134 焼却炉	土師器 高周砂	* - (12.2) * 70%	やや粗: 5cm以下の石・ 瓦・長石・カリ繩	7.5Y R 6 / 6	(外) 枝張・脚部既読のため不明 脚部ナデに焼却跡みられる (内) 枝張・脚部既読にシボリメ痕	
106	S R 134 焼却炉	土師器 小丸丸鉢	(15.4) - (6.4) * 15%	やや粗: 3cm以下の石・ 瓦・長石・陶器・ リビン	灰 7.5Y R 6 / 6	(外) ヨコジテナデ・一部ヨコミガキ、体部は密なヨコミ ガキ (内) 口縁部既読のため不明、ミガキか 体部ヨコケリ	春影あり
107	S R 134 焼却炉	土製品 鉢部片	5.9 - 5.9-0.8 100%	南: 3cm以下の石・ 瓦石・カリ繩	灰 7.5Y R 6 / 4	全面ナデ	焼成跡穿孔
108	S R 140 焼却炉	土師器 脚部片	* - (3.1) *	やや粗: 2cm以下の石・ 瓦・長石	灰 5Y R / 2	(外) 口縁部ヨコナデ (内) 脚部ナデハケ	
109	S R 140 焼却炉	土師器 底面	* - (1.9) - (4.6) 底面のみ 10%	やや粗: 4cm以下の石・ 瓦・長石	灰 7.5Y N 3 / 0	(外) 底部・底部既読工凡底 (内) ハケナデ・ミガキ	
110	S R 154 焼却炉	土師器 脚部	(13.0) - 3.0 * 脚部のみ 30%	粗: 2cm以下の石・ 瓦石・カリ繩	灰白 10Y R 8 / 2	(外) L字跡焼付痕・ヨコナデ 口縫から脚部にかけて右上がりの平行タキをナデし (内) 口縫・脚部ヨコナデ	内面口縫焼付痕 L縫一部二次焼成を 受ける
111	S R 154 焼却炉	土師器 脚部	* - (2.5) - (13.4) 底面のみ 10%	南: 3cm以下の石・ 瓦石・カリ繩	7.5Y R 7 / 6	(外) 脚部ヨコミガキ (内) 脚部ヨコミガキ	
112	S B 060 土師器 杯(杯A)	土師器 脚部断片	* - (3.6) * 底面	密: 小砂粒	灰	(外) 体部既読のため不明 (内) 体部既読のため不明 口縫焼付痕・右縫既読	
113	S E 110 焼却炉 土塗	土師器 脚部片	* - (5.5) *	やや粗: 4cm以下の石・ 瓦・長石	灰 10Y R 8 / 3	(外) ヨコジテ、界面は水平にのびる (内) 利用のため不明	焼却炉付着
114	S E 110 焼却炉 土塗	土師器 脚部片	* - (2.1) *	粗: 2cm以下の石・ 瓦石・カリ繩	灰 10Y R 8 / 3	(外) 脚部に 3 条の沈黙巡る、ヨコナデ (内) 利用のため不明	
115	S E 110 焼却炉 天シルト (瓶M)	土師器 脚部	* - (5.7) - 3.5 50%	やや粗: 3cm以下の石・ 瓦・長石	不灰 10N 8 / 0	(外) 体部半埋蔵ナデ、底部既読各切り盛り既存 (内) 口縫ナデ	
116	S K 120 瓦	瓦	15.2 - 6.3-6.3 90%	南: 小砂粒	灰 10N 4 / 0	(外) 体部ヨコミガキ社四分割、ミガキの体部中位まで (内) 体部のミガキはむざかに凹凸がありれる 泥込み既読のため不明	
117	S P Q54 焼却炉 (杯A)	土師器 杯(杯A)	(15.8) - (2.6) *	やや粗: 3cm以下の石・ 瓦・長石・カリ繩	7.5Y R 7 / 4	(外) 口縫部ヨコナデ、体部オサエ後、ヨコナデ (内) ヨコジテ・ヨコ縫既読と小さく土縫間に肥厚させる	
118	合意層 被覆不明	生土柱 焼却炉	* - (1.4) - 4.0 底面のみ 100%	南: 2cm以下の石・ 瓦石・カリ繩	灰 2.5Y T 7 / 2	(外) 体部ナデタキ痕、底部ナデナデし、底部剥離 (内) 体部ナデオサエ後ヨコハケナデタキ方向にナデ上げ	
119	合意層 被覆不明	焼却炉 焼却炉形 焼却炉シルト	* - (2.5) *	やや粗: 3cm以下の瓦 瓦石・カリ繩	7.5Y R 7 / 6	(外) ヨコジテ比較的高い、ヨコナデ (内) ヨコナデ	
120	合意層 被覆不明	焼却炉 円筒埴輪	(8.7) - (8.3) - 1.8 90%	やや粗: 3cm以下の石・ 瓦・長石・鐵器・ カリ繩	南: 7.5Y R 5 / 6	(外) タキテ後ヨコハケを施すと考えられる (内) 凸凹部裏はオサエヨコ方向のナデ、タテハケ	円筒通孔の一部既存
121	合意層 被覆不明	焼却炉 焼却炉形 焼却炉シルト	(18.5) - (13.2) - 1.4 90%	街: 4cm以下の石・ 瓦・長石・陶器・ カリ繩	灰 7.5Y R 7 / 4	(外) 破壊部はタテハケが残存、上端部はオサエナデ ナデ	
122	合意層 被覆不明	焼却炉 円筒埴輪	* - (2.5) *	やや粗: 6cm以下の石・ 瓦・長石・カリ繩	7.5Y R 7 / 6	(外) 内密は低くやや下向きに貼り付ける (内) ナデ	
123	合意層 被覆シルト	焼却炉 脚部	* - (5.0) *	密: 2cm以下の長石・ 瓦石	N: 4 / 0	(外) 2条の凹縫と 2 条の押縫状紋を交互に配す (内) 四輪ナデ	
124	合意層 焼却炉形 焼却炉シルト	焼却炉 焼却炉シルト	* - (9.2) *	やや粗: 4cm以下の石・ 瓦・長石・鐵器・ カリ繩	灰 7.5Y R 8 / 3	(外) タテハケ後ヨコハケ、西面部は幅広い 東面部裏はオサエヨコ方向のナデ	126 と同一個体の可 能性
125	合意層 焼却炉シルト	焼却炉 焼却炉シルト	* - (10.2) *	やや粗: 4cm以下の石・ 瓦・長石・鐵器・ カリ繩	灰 7.5Y R 8 / 3	(外) タテハケ後ヨコハケ、西面部は幅広い 東面部裏はナデナデ	円形の透孔
126	合意層 焼却炉シルト	土師器 焼却炉シルト	0.1 - 1.5 * 90%	やや粗: 1mm以下の石・ 瓦・長石・鐵器・ カリ繩	7.5Y R 7 / 5	(外) 口縫部にナデ・ナデ付近にヨコナデ 体部既読オサエ (内) 口縫既読ヨコナデ、体部ナデ	外面底部に、棒モミ線
127	合意層 焼却炉シルト (杯A)	土師器 焼却炉シルト	* - (5.0) *	密: 1mm以下の石・ 瓦石・陶器・ カリ繩	灰 7.5Y R 8 / 6	(外) 口縫部付近ヨコミガキ既存、体部オサエ後ナデ (内) 体部ヨコミガキ	
128	合意層 焼却炉シルト	土師器 焼却炉シルト	* - (1.8) *	密: 1mm以下の石・ 瓦石	N: 3 / 0	(外) 口縫既読の小窓部、水平に伸びる細い縫を動かす (内) 口縫既読のため不明	
129	合意層 焼却炉シルト	瓦 平瓦	瓦当部のみ	密: 5mm以下の石・ 瓦石・カリ繩	灰 7.5B 6 / 1	(外) 瓦当部は自体を握る、端部付近はヨコ方向のケズり 端部はナデ方向のケズりが複数する	端部を欠損する

表5 検出遺構および出土遺物一覧 (1)

番号	遺跡番号	種別	部位	出土遺物	所見	地区
1	S.D.001	遺構		土器破片・甕・瓶片	1→25・26	AP・AG-23
2	東側通路	遺構		骨質遺物・凹面基盤		
3	東側通路	遺構		焼焦痕片(?)		
4	東側通路	遺構		陶土・土器破片		
5	S.P.006	遺物		陶土・土器破片	6→21	AD-22
6	S.P.007	遺物		陶土・土器破片		AD-23
7	S.P.008	遺物		陶土・土器破片		AD-23
8	S.I.009	遺物		陶土・土器破片	6・7・8で集成	AD-22・23
10	S.R.010	道路	板白塗 青灰漆	瓦・瓦頭部片 土器破片		AB-AB-17~23
11	S.D.011	南壁塗		陶土・土器破片		AE
12	S.D.012	南壁塗		土器破片・瓦頭部片		AF
13	S.D.013	南壁塗		陶土・土器破片		AG
14	S.D.014	南壁塗		土器破片・瓦頭部片・瓦片	14→15	AK
15	S.D.015	南壁塗		土器破片・瓦頭部片・瓦片		AK
16	S.D.016	南壁塗		陶土・土器破片		AG
17	S.D.017	南壁塗		陶土・土器破片・瓦頭部片・瓦片		AH
18	S.D.018	南壁塗		土器破片・瓦頭部片		AH
19	S.D.019	南壁塗		土器破片		AH
20	S.R.020	道路	板白塗 青灰漆 東灰漆	瓦・瓦頭部片 土器破片・瓦・瓦頭部片 陶土・土器破片		AC~AI-7~23
21	S.D.021	南壁塗		陶土・土器破片		AD
22	S.X.022	北壁塗		陶土・土器破片?		AI-08
23	S.X.023	北壁塗		瓦頭部片・瓦頭部片、瓦頭部片		AI-09
24	S.X.024	北壁塗		瓦頭部片		AI-10
25	S.P.025	柱穴		鐵頭上部		AD-23
26	S.P.026	柱穴		鐵頭上部		AD-23
27	S.D.027	南壁塗		土器破片・瓦頭部片・瓦片		AI
28	S.D.028	南壁塗		土器破片・瓦頭部片	25→27	AI~AJ
29	S.D.029	南壁塗		土器破片・瓦頭部片		AI~AJ
30	S.D.030	南壁塗	鐵頭塗 鐵頭シルト	陶土・土器破片・瓦頭部片		AD~AN-5~18
31	S.D.031	南壁塗		陶土・土器破片・瓦頭部片・瓦・瓦頭部片		AI
32	S.D.032	南壁塗		土器破片・瓦・瓦頭部片・瓦頭部片		AK
33	S.D.033	南壁塗		土器破片		AM
34	S.D.034	南壁塗		土器破片		AM
35	S.D.035	南壁塗		土器破片・千層陶器		AM
36	S.D.036	南壁塗		土器破片・瓦		AM~AM
37	S.D.037	南壁塗		土器破片・瓦頭部片		AM~AM
38	S.D.038	南壁塗		土器破片・瓦頭部片		AM
39	S.D.040	窓		土器破片		AM
40	S.D.041	窓		土器破片・瓦頭部片	箇中に陶山アロッカ多く散む S100 黒シルトより出土	AI~AN-6~17 AO-07
41	S.X.041	黑シルト	土器残骸・高体			
42	S.D.042	南壁塗		土器破片・瓦片		AI
43	S.R.043	道路		瓦頭部片	AI→37	AI~AN-19~21
44	S.R.044	道路		瓦頭部片	44→10	AI~AN-19~21
45	S.K.045	土坑	鐵頭シルト	土器残骸		AH~AI-20~21
46	S.D.046	南壁塗	鐵頭塗 鐵頭	土器残片・瓦・瓦頭部片		AE
47	S.D.047	南壁塗		土器残片・瓦		AD~AD
48	S.R.048	道路		瓦頭部片		AI
49	S.R.049	道路		瓦頭部片	49→10→20	AD~AE-17~18
50	S.R.050	道路	鐵灰漆 鐵頭シルト	鐵頭シルト・瓦頭部片	50→20	AI~AN-18~19
51	S.D.051	南壁塗		土器残片・瓦・瓦頭部片		AI
52	S.P.052	柱穴		土器残片		AI-23
53	S.P.053	柱穴		土器残片		AI-23
54	S.P.054	ピット	土器残片		AI-22	
55	S.P.055	ピット	土器残片		AI-22	
56	S.D.057	南壁塗	瓦頭部片・土器残片	S100を積成	AI-22	
57	S.P.058	ピット	土器残片・土器残片		AM	
58	S.P.059	ピット	土器残片		AM-23	
59	S.B.060	廻り柱遺物		× × 3cm以上	AM~AH-5~10	
60	S.P.061	柱穴		土器残片		AM~AH-22
61	S.P.062	柱穴		土器残片		AM~21
62	S.D.063	南壁塗		土器残片		AI-16~21
64	S.D.064	南壁塗		土器残片・瓦片	64→35	AI
65	S.D.065	南壁塗		土器残片		AI
66	S.P.066	柱穴		土器残片・瓦片		AI-15
68	S.P.068	ピット		土器残片		AI-18
69	S.D.069	南壁塗		土器残片		AD
70	S.R.070	道路	板白塗 鐵頭塗 鐵頭シルト	土器残片・瓦・瓦頭部片・太頭部片・瓦・瓦頭部片 鐵頭シルト	灰白紺は AE~AG14 区の閣状階落埋土 標 2ヶ所	AD~AN-5~16
71	S.D.071	南壁塗		土器残片		AC
72	S.D.072	南壁塗		土器残片・瓦片		AC
73	S.D.073	南壁塗		土器残片・瓦片・瓦頭部片		AI-5~16
74	S.D.074	南壁塗		土器残片		AD-5~19
75	S.D.075	南壁塗		土器残片		AI-14~15
76	S.P.076	南壁塗		土器残片		AI-14~15
77	S.P.077	ピット		土器残片		AG-14~15
78	S.D.078	南壁塗		土器残片・瓦頭部片		AG
79	S.D.079	南壁塗		土器残片	23の腰まか?	AI
80	S.R.080	道路	青灰漆 鐵頭塗	瓦・瓦頭部片・土器残片	40→80	AF~AN-2~13
81	S.K.081	土坑		土器残片・瓦片		AE-13
82	S.P.082	柱穴		土器残片・瓦片		AG-5~16
83	S.D.083	井	灰白塗	土器残片	83→20	AF~AH-13
84	S.P.084	柱穴	鐵頭シルト	土器残片	SB084を積成	AC-B
85	S.P.085	柱穴	鐵頭シルト	土器残片	SB085を積成	AC-B
86	S.P.086	柱穴	鐵頭シルト	土器残片	SB086を積成	AD-B

表6 検出遺構および出土遺物一覧 (2)

S番号	遺構名	種別	層位	出土遺物	所見		地区
					SB060を構成	SB060を構成	
91	S.P.091	井戸	南方	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AE - 8
92	S.P.092	井戸	南方	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AE - 9
93	S.P.093	井戸	南方	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AE - 10
94	S.X.094	道路	南方	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AE - 13
95	S.S.095	道路	南方	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AE - AH - 9 ~ 10
96	S.S.096	道路	南方	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AE - AH - 7
97	S.S.097	土坑	南方	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AE - 8
98	S.S.098	土坑	南方	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AE - AH - 7 ~ 10
99	S.R.099	道路	南方	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AE - AH - 7 ~ 10
100	S.D.100	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AM - AU - 2 ~ 7
101	S.R.101	井戸	南方	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AM - AH - 7 ~ 11
102	S.R.102	土坑	南方	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AM - AH - 14 ~ 15
103	S.D.103	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AK
104	S.D.104	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AK
105	S.D.105	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AK
106	S.D.106	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AK
107	S.D.107	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AK
108	S.D.108	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AH - 15 ~ 16
109	S.D.109	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 10 ~ 12
110	S.E.110	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AS - 7
111	S.D.111	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AS - AH - 7 ~ 9
112	S.D.112	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AS - AH - 10 ~ 11
113	S.D.113	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AJ - 10
114	S.D.114	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AT
115	S.D.115	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AS
116	S.D.116	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AS
117	S.D.117	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AS
118	S.D.119	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AS
120	S.R.101	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AR - 2 ~ 8
121	S.D.121	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 5 ~ 9
122	S.D.122	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 2 ~ 6
123	S.D.123	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 7 ~ 9
125	S.K.125	土坑	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 7
126	S.D.126	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AH - 8 ~ 9
127	S.E.127	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AP - 11
128	S.D.128	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 8 ~ 10
129	S.D.129	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 8 ~ 10
130	S.B.130	墨立柱植物	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	137 ~ 139, 141 ~ 144, 146 ~ 149, 151, 152で構成
131	S.P.131	ピット	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AS - 7
132	S.P.132	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AS - 9
133	S.R.133	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AS - AD - 2 ~ 4
134	S.R.134	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AK - 2 ~ 4
135	S.D.135	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AK
136	S.P.137	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 2
138	S.P.138	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 3
139	S.P.139	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 3 ~ 4
140	S.P.140	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AH - 2 ~ 12
142	S.P.142	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 4
143	S.P.143	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 4
144	S.P.144	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 4 ~ 3 ~ 4
145	S.R.145	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AS - 9 ~ 12
146	S.P.146	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 3
147	S.P.147	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 3
148	S.P.148	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 2
149	S.P.149	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 3
150	S.B.150	墨立柱植物	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	56, 159, 161, 162, 163, 164, 166で構成
151	S.P.151	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 3
152	S.P.152	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 4
153	S.D.153	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AK - 4 ~ 5
154	S.R.154	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AD - 2 ~ 4
155	S.K.155	土坑	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AN - 4
156	S.R.156	道路	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AH - 2 ~ 7
157	S.P.158	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - AH - 10 ~ 19
158	S.P.158	ピット	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 9
159	S.P.159	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 22
160							
161	S.P.161	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 22
162	S.P.162	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 22
163	S.P.163	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 22
164	S.P.164	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 22
165							
166	S.P.166	井戸	井戸	土縁切石・柱・石板片	SB060を構成	SB060を構成	AI - 23
167		包含層	灰白砂	土縁切石・柱・石板片、瓦・鋸、鏡片、漢字磨頭片、及黄土磨頭片、門檻切石			
168		包含層	暗褐色シルト	土縁切石・柱・石板片、及黄土磨頭片、瓦・鋸、黑色十面鏡、瓦踏脚、五瓣土器、制御板、門檻切石、石面剥片			
169		包含層	灰白色シルト	土縁切石・柱・石板片			

写真図版



調査区全景（南から）

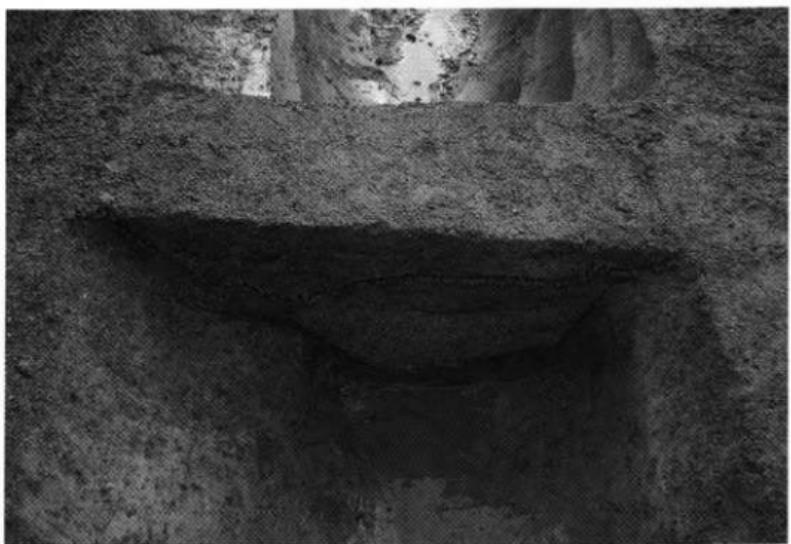


SB150 全景（北東から）

PL.2



SE127 土層断面（南から）



SD153 土層断面（西から）

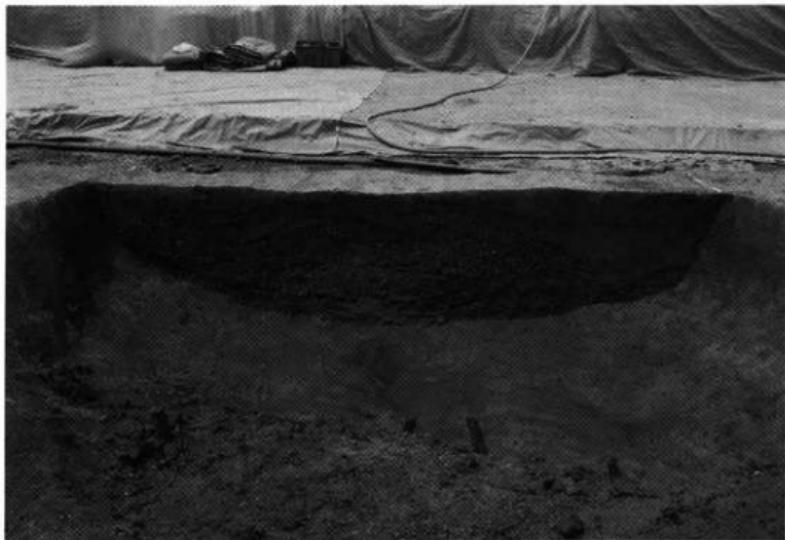


SR020 土層断面（東から）

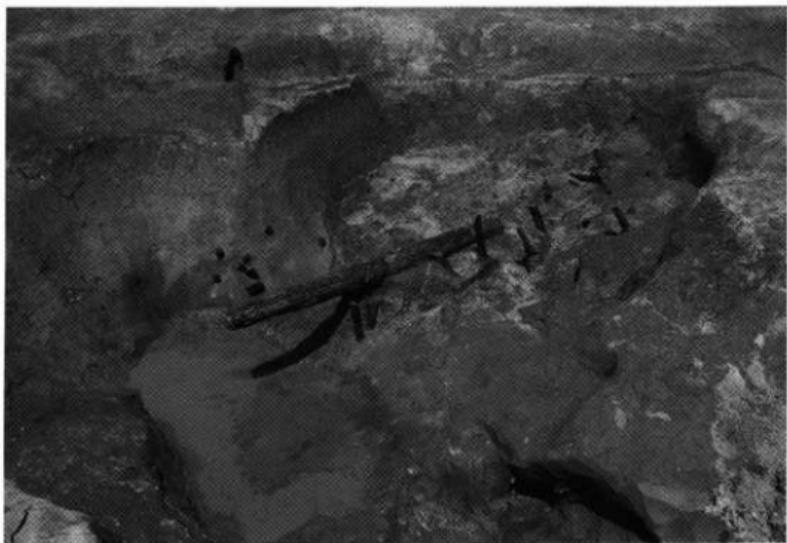


SR050 土層断面（東から）

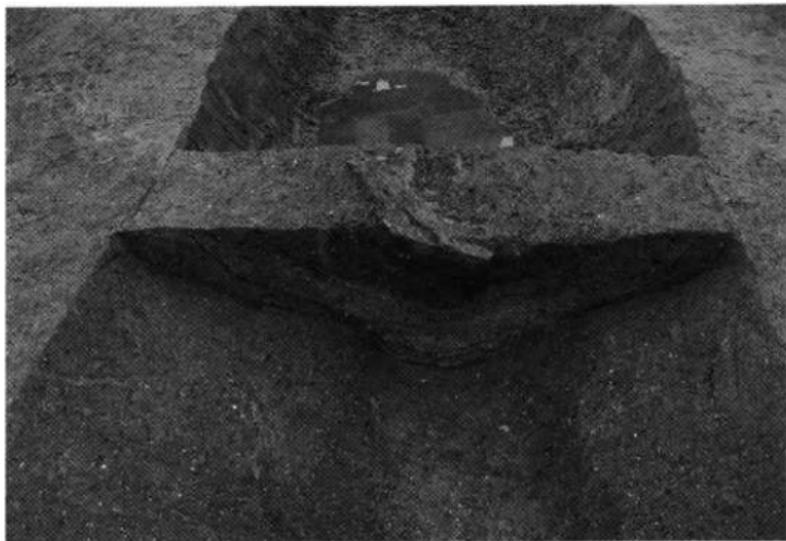
PL.4



SR070 土層断面（南から）



SR070 土全景（東から）

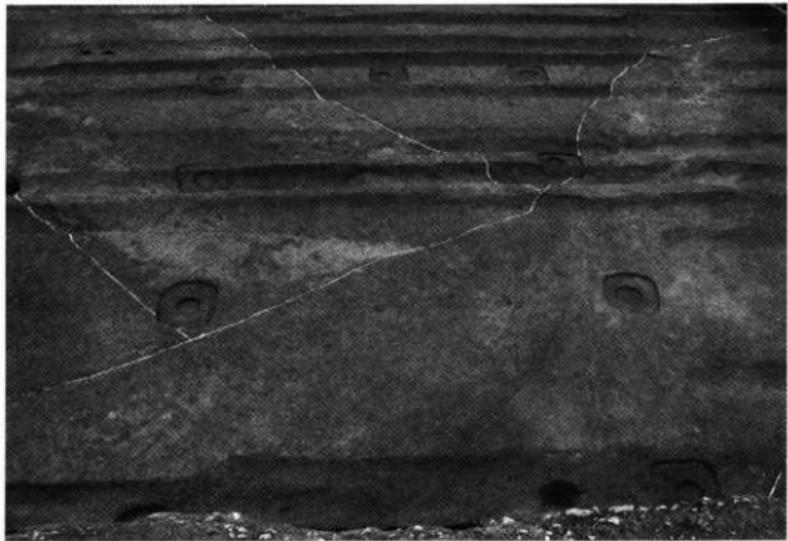


SR083 土層断面（南から）

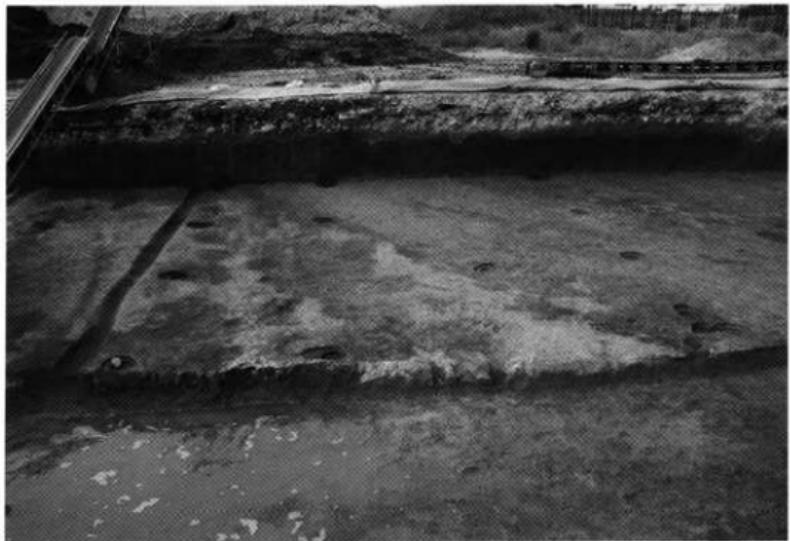


SR140 土層断面（南東から）

PL.6



SB060 全景（西から）



SB130 全景（南から）

報告書抄録

曲川遺跡発掘調査概要報告書

2007 年度調査

平成 21 (2009) 年 12 月

(発行・編集) 財団法人元興寺文化財研究所

(印刷) 慶明新社